

令和4年度  
全国学力・学習状況調査  
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



令和5年2月  
鹿児島県教育委員会

# 市町村別の調査結果

## 正答率分布表について

- ※ 表は、児童生徒の正答率分布です。
- ※ 正答率を5段階に分けて示し、各段階の児童生徒数の割合を示しています。  
1:0%~20%未満, 2:20%~40%未満, 3:40%~60%未満,  
4:60%~80%未満, 5:80%~100%
- ※ ただし、正答率分布の人数割合は四捨五入して整数値としているため、若干の誤差があります。

児童数	5071	小学校数	77
生徒数	4564	中学校数	38
計	9635	計	115

鹿児島市教育委員会

## 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

### 1 正答率分布表

人数割合 (%)	科目	小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	国語	3	9	21	36	31	2	7	16	37	38
	算数・数学	2	14	30	36	18	12	21	28	27	11
	理科	1	11	21	44	23	4	28	42	23	4

### 2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <p>[小学校]</p> <p>(国語科) 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の話し言葉と書き言葉との違いを理解することや、「我が国の言語文化に関する事項」の漢字や仮名の大きさ・配列に注意して書くことなど、知識及び技能に関する指導内容について、成果が見られる。</p> <p>(算数科) 「数と計算」領域において、知識及び技能の定着が図られているとともに、問題場面の数量の関係に着目し、根拠を基に筋道を立てて考え、表現することにおいて成果が見られる。</p> <p>(理科) 「粒子」を柱とする領域における器具の理解や正しい使い方、「地球」を柱とする領域において水は水蒸気になって空気中に含まれていることなどの理解など、身近な現象と関連付けた知識及び技能に関する指導内容について、成果が見られる。</p> <p>[中学校]</p> <p>(国語科) 漢字を正しく書くことや助動詞の働きについて理解することなど、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導内容について、成果が見られる。また、「読むこと」の領域においても、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができている。</p> <p>(数学科) 「データの活用」領域における多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味、「関数」領域の与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取るなど、知識及び技能に関する指導内容について、成果が見られる。</p> <p>(理科) 「エネルギー」を柱とする領域における力の図示及びその説明、「生命」を柱とする領域における未知の節足動物の分類の観点や基準を基にした分析など、知識及び技能の着実な定着とそれを活用して思考することに関する指導内容について、成果が見られる。</p> <p>○ 課題</p> <p>[小学校]</p> <p>(国語科) 「書くこと」の領域において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることなど、思考力、判断力、表現力等に関する指導内容に課題が見られる。</p> <p>(算数科) 「図形」及び「変化と関係」の領域において、図形を構成する要素に着目して、図形の性質や構成の仕方について考察したり、基準量、比較量、割合の関係について考察したりすることに課題が見られる。</p> <p>(理科) 児童質問紙において「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」の質問に対して当てはまると答えた児童の割合が低いことに課題が見られる。</p> <p>[中学校]</p> <p>(国語科) 「書くこと」の領域において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。</p> <p>(数学科) 「数と式」領域における整数の性質や「関数」領域における一次関数の変化の割合の意味の理解、「図形」領域における筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られる。</p> <p>(理科) 「地球」を柱とする領域において、気圧の概念を空気の柱で説明することの理解、地層の広がりについて与えられた資料を関連付けて理解し、地層の傾きを分析することに課題が見られる。</p> <p>○ 課題の改善策</p> <p>[小学校]</p> <p>(国語科) 伝え合う経験を積み重ねていくとともに、学習の状況に応じて、教師がペアやグループの伝え合いに参加し、文章のよいところを児童から引き出したり、内容や表現方法を価値付けたりする指導を行う。</p> <p>(算数科) 図形を構成する要素に着目して、図形を作ったり分解したり、作図したりするような数学的活動の充実を図ったり、日常の中で割合が使われている場面を学習課題として取り上げ、生活と関連させながら考える問題解決的な学習を行う。</p> <p>(理科) 児童の気付きに基づいて学習課題を設定し、児童がその解決に向けた観察や実験を計画し、その後でその妥当性を振り返る学習活動に重点をおくことで、主体性をもって問題解決的な学習に取り組ませる指導を行う。</p> <p>[中学校]</p> <p>(国語科) 根拠を明確にするためには、複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられることを生徒に理解させ、引用の仕方や出典の示し方の知識を生かして書くことができるように指導を行う。</p> <p>(数学科) 用語の意味だけでなく、既習内容と関連付けることで、その有用性を実感させる。証明においては、与えられた条件だけでなく、これまでに示したことに着目し、問題を焦点化して取り組ませる。また、演習では、条件を変えて取り組ませる指導を行う。</p> <p>(理科) 身近な現象や生徒が興味をもちやすい題材から生徒の疑問に基づいた学習課題を設定し、抽象的な概念についてもモデル等を用いて理解に努め、理解したことを身近な現象と関連付ける学習活動に取り組ませる指導を行う。</p>
---

### 3 成果の見たれた学校の取組事例

<p>[小学校]</p> <p>(国語科) 単元テストの実施直後、児童全員の定着度を確認した上で、理解できるまで何度も解かせた。Web問題を利用しやすくするために製本し、年間を通じて授業や家庭学習で取り組ませた。</p> <p>(算数科) 過去の問題やWeb問題に積極的に挑戦した。少人数指導を通して、子供一人一人の実態把握を行い、授業改善に努めた。授業のラスト10分の時間を確保することにより、学習内容の定着を図ったり、振り返りを行ったりした。</p> <p>(理科) 過去の全国学力・学習状況調査の分析から教員間で重点課題を共有し、重点取組を教育課程に位置付けて徹底した。また、観察・実験の効果的な方法等について、学校間での情報共有も行った。</p> <p>[中学校]</p> <p>(国語科) 毎時間の授業で表現する場を設定し、論理的に自分の考えを伝えることができているか、見届けまで確実に行った。Web問題に計画的に取り組んだ。語彙力の育成を目的として、新聞のコラム欄を読み、分からない語句を辞書で調べ、キーワードを基に要約することを週末課題として取り組んだ。</p> <p>(数学科) 定着度分析を踏まえた授業中の最初に取り組む日々題や鹿児島学力向上支援Webシステムの単元・領域別評価問題を活用して休日課題に取り組ませ、見届けまで確実に行った。生徒同士が学び合う雰囲気や教師に対しても質問しやすい雰囲気を大切にた。</p> <p>(理科) 授業の中で日常生活との関連を話したり、博物館等のイベントを紹介したりするなど、実体験や観察を重視した授業になるよう努めた。</p>
---

児童数	404	小学校数	15
生徒数	430	中学校数	7
計	834	計	22

日置市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	9	25	33	30	2	7	19	38	35
	算数・数学	2	12	36	34	16	14	25	29	22	10
	理科	2	11	25	44	19	3	34	43	18	3

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の国語と理科, 中学校の国語で全国平均以上と成果が見られた。国語については, 特に, 大規模校において校内研修が充実し, 単元を通じた言語活動等が明確に位置付けられた授業が行えるようになり, 習得と活用を一体的に育む授業展開がなされている結果と考えられる。小学校の理科については, 授業改善を進めるとともに, 過去問や演習問題へ意図的計画的に取り組んだ結果であると考えられる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校においては算数科, 中学校においては数学科と理科に課題が見られた。特に, 知識・理解を問う問題より, 思考・判断・表現を問う問題に課題が見られた。いずれの教科についても, 問題解決の過程において, 問題解決の方法を教師が提示する場面が多く, 解決方法や考えの吟味及び比較・関係付ける学び合いが十分にされていないことが要因として考えられる。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善として, 「めあて」と「まとめ」の整合性を意識した授業展開に加えて, 課題解決の「見通し」とその過程の「振り返り」など児童生徒の主体的な学びに繋がる授業設計を意識していく必要がある。さらに, ICTの効果的な活用として, これまでまずはタブレット端末を授業で使うこと自体を目的にしていることが多かったが, 今後は, 「個別最適化した学び」や「協働的な学び」を実現する効果的な活用を促していく必要がある。また, 今週の1問等の取組についても, その取組の意義を共通理解させるとともに, 管理職による確実な見届けが必要である。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>諸学力検査の分析を全職員で行い, 課題について, 当該学年で取り組むべきことを明確にして授業改善を心がけた。【小学校】</li> <li>校内研修において, 全体のテーマのみならず, 個人研修テーマを設定させて指導力の向上に努めている。【小学校】</li> <li>「めあて」と「まとめ」を意識した授業を実践し, 「まとめ」においては, 学年が上がるにつれ, 子供自らの言葉でまとめることができるようになってきた。【小学校】</li> <li>市の授業改善へ向けたリーフレット(のびゆくひおき子Ⅱリーフレット)を活用することにより, 研究授業の指導案作成や授業研究において, 有効な指標となった。【小学校】</li> <li>市研究指定校「学力向上」と関連して, 「振り返りの場の設定」について, 意識が高まるとともに, 具体的な方法に論点に移りつつある。【中学校】</li> <li>「学びの羅針盤」を活用しながら, 全職員で授業づくりに取り組んだことで, 一単位時間の授業展開や板書・発問などに改善が見られた。【中学校】</li> </ul>
--

児童数	215	小学校数	8
生徒数	171	中学校数	5
計	386	計	13

いちき串木野市教育委員会

## 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

### 1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	14	27	41	16	2	6	18	37	38
	算数・数学	3	17	39	30	11	8	25	28	25	13
	理科	1	11	23	43	21	3	18	45	32	2

### 2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語では, 1, 2段階の割合は8.3%, 4, 5段階の割合が74.3%であり, 各領域においてバランスよく力が付いている。</li> <li>・ 小学校の全教科において, 児童質問紙の「勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」の項目で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が, 県・全国を上回った。児童にとって「楽しく分かる授業」の充実に努めている成果である。</li> <li>・ 本市の児童・生徒の無答率は, ほとんどの設問で全国より低い。あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢が身に付いてきている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校国語において, 物語を読み, 物語の全体像を想像したり, 表現の効果を考えたりすることに課題がある。また, 文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。</li> <li>・ 小学校算数において, 4, 5段階の割合が40.6%であり, 全国と比べると-11.3%と大きく下回っていることから, 中位層を上位層へ引き上げることが今後の課題である。</li> <li>・ 中学校数学の設問「42を素因数分解する」「一次関数の関係を表した表の選択」の正答率が, 全国・県の正答率を大きく下回った。知識・技能の観点に関する学習内容を確実に定着させることが課題である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校国語の長文(物語)読解の学習において, 複数の叙述を基に, 登場人物の気持ちや相互関係を捉えたり, 物語全体から伝わってくる人物像や物語の全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりする指導が不十分なので, 調査報告書の授業アイデア例などを活用し, 授業改善について具体的に指導する。</li> <li>・ 小学校算数の全領域において, 基礎的な知識・技能の確実な定着を図るとともに, 特に課題がある「変化と関係」「データの活用」の領域については, 市教委から出す「今週の1問」で関係する問題を意図的に出題してできるようになるまで繰り返し取り組ませる。</li> <li>・ 中学校数学の全領域において, 基礎的な知識・技能の確実な定着を図るとともに, 問題解決の方法や事柄が成り立つ理由等について自分の考えを説明する課題に取り組ませ, 対話的な活動によって筋道を立てて考えたり数学的な表現を用いて説明したりする学習活動を積極的に進めるように指導する。</li> </ul>
--

### 3 成果の見られた学校の取組事例

<p>【演習問題の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今週の一問や学力調査の過去問題等の活用に加えて, 類似問題にも取り組む時間を教育課程の中に位置付け, 学習内容の確実な定着に結び付けている。</li> <li>・ 演習問題の計画的・継続的な取組。過去問等の演習問題については, 週1回必ず取り組み, 3J(条件・時数・時間)を意識して解答させるようにしている。</li> </ul> <p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科において, 基礎的・基本的な事項を授業中に確実に理解させ, 徹底して定着させる取組を行っている。</li> <li>・ 授業における共通実践事項の取組の徹底・・・全職員が, 板書(めあて, まとめ), 発問, 問い返しの発問を共通実践として充実させ, 算数科においては, 「課題を図や表で表し, 論理的に思考する指導の徹底」を行っている。</li> <li>・ 一人一研究授業では, 各教科の見方・考え方を明確にし, 指導案に明記させ, 管理職が授業についてのフィードバックを的確に行って, 個々の授業力アップにつなげている。</li> <li>・ 職員研修において, 全職員が学力調査の出題問題を実際に解き, 問題や問題を解くために身に付けさせたい力について分析し, 授業改善に役立てている。(全学年で, 教科の系統性を意識した授業づくりを行っている。)</li> </ul> <p>【個別指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中はもちろん, 演習問題等においても個別指導を確実に進めている。(解説・見届け, できるようにするまで取り組ませることを徹底)</li> </ul>
---

児童数	152	小学校数	4
生徒数	132	中学校数	4
計	284	計	8

枕崎市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	15	23	38	21	2	10	22	33	33
	算数・数学	3	12	36	32	18	14	30	26	24	8
	理科	1	9	26	44	21	8	30	33	24	6

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校で実施する研究授業や授業研究, 学校訪問時の授業参観, 市教科部会での授業を通じた研修の中で対話や他者との協働による授業づくり, 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業づくりに関する指導助言を通して, 教職員の授業改善への意識の高まりに繋がった。</li> <li>演習問題の計画的, 継続的な取組について指導を行い, 各学校の実態に応じた取組がなされた結果, 基礎的・基本的事項の定着については改善が見られた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力や表現力を問う問題の正答率にやや課題が見られるので, 調査問題に対応した授業への改善について, 機会をとらえて教職員の指導力向上を図る取組を推進する必要がある。</li> <li>授業における演習問題の計画的, 継続的な活用について今後とも機会をとらえて指導を行う必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりの指針である「枕崎市の授業づくり3ポイント」を作成し, 各学校で共通理解を図るとともに, 問題解決的な学習課題を設定した授業への改善を図る指導を行う。</li> <li>市教科部会で「授業を通じた研修」を通して, 継続的な教職員の指導力向上の取組を行う。</li> <li>調査結果の分析を通じた授業改善の取組について, 管理職研修会や校内研修等, 機会をとらえて指導を行う。</li> <li>今年度実施する「輝け! 夢・命推進事業」において, 児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める取組を行う。</li> <li>各学校で調査結果の分析を早期に行い, 授業改善につなげるよう管理職研修会で指導する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職が思考力や表現力を問う内容を中心としたチャレンジ問題を作成して取り組ませる。実施後の見届けを必ず行うとともに, 結果の分析を担任とともにに行い, 授業改善に生かす。</li> <li>基礎的な知識, 技能の定着を図る問題(ホップ・ステップ・ジャンプ問題)を毎日継続して実施し, 実施後の見届けを確実にを行う。</li> <li>定着が不十分な学習内容について, 類似問題等へ繰り返しの取組と個別指導・補充指導の充実を図る。</li> <li>基礎的・基本的事項に関する問題や, 演習問題に取り組む時間(ゆきタイム)を設定し, 学力の定着を図る。</li> </ul>
---

児童数	300	小学校数	9
生徒数	298	中学校数	5
計	598	計	14

指宿市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	11	24	36	26	2	6	22	37	35
	算数・数学	1	14	33	34	18	13	29	31	22	6
	理科	1	11	23	44	21	4	33	40	20	4

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校数学以外の5教科において、県平均・全国平均正答率を上回る結果、または同等の結果となった。</li> <li>・ 学力向上へ向けた施策を推進した結果が徐々に成果となっている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の学力向上への取組状況・結果に差があり、より学力向上へ資する改善策を指導する必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上に向けた指導主事の定期的な学校訪問を行い、学力向上に向けた取組（Webシステム単元別評価問題、過去の調査問題の活用、個別指導の徹底）について指導及び見届けを徹底する。</li> <li>・ 各学校の「学力向上プラン」を通して、課題解決に向けた具体的な目標や実践計画を基に、PDCAサイクルで年間を通した取組を支援する。</li> <li>・ 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を図るために、各学校において掲載問題の年間活用計画を作成するとともに、各学級の取組状況について、管理職による見届けを徹底する。</li> <li>・ 指宿市授業力向上事業（ITPいぶすきのたまてばこプロジェクト）により、学力向上に向けた見識を高め、教員の意識向上や指導力向上に向けた教師力アップ研修会を実施する。</li> <li>・ 「いぶすき授業カリーフレット」や「学びの羅針盤」を校内研修会等で積極的に活用するよう指導し、活用状況について見届けを徹底する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業においてAIドリルを活用した個別指導の充実を図った。</li> <li>・ 個別指導に管理職も積極的に参加するなど個別指導の充実を図った。</li> <li>・ 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を図るために、学校において掲載問題の年間活用計画を作成し、複数回実施することにより、定着率の向上を図った。</li> <li>・ 定期テストや授業において「かごしま学力向上支援Webシステム」掲載問題を使用し、取組を工夫した。</li> <li>・ 調査結果を分析し、年間指導計画等に朱書きなどを行い、定着率の低い単元の指導の充実を図った。</li> <li>・ 日々の学習内容の定着率を高めるため、家庭学習と授業を連携させた。</li> </ul>
---

児童数	231	小学校数	12
生徒数	229	中学校数	5
計	460	計	17

南さつま市教育委員会

## 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

### 1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	8	24	37	29	2	8	21	40	29
	算数・数学	1	16	32	35	17	20	23	33	18	6
	理科	0	8	27	48	17	3	39	38	17	3

### 2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市では、年度当初に各学校に「学力向上グランドデザイン及びロードマップ」の中に市教委が配布した「今週の1問」や学校が実態に応じて作成した独自の演習問題等の活用を明記するように指導してきた。学校では、これらの計画をPDCAサイクルに基づいて適宜修正を加えながら計画的に実施してきた。これにより今回の調査結果でも、小学校では、3教科とも全国平均と同等かそれ以上の結果を残すことができた。また、特に小学校における無答率については、全ての教科において、県・全国平均を大きく下回り、最後まで粘り強く問題に取り組む子供が育成されつつある。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <p>【小学校】</p> <p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4, 5段階は66%となっており、県・全国平均と比較して同程度であるが、前回(76%)と比較して割合が下がっている。</li> <li>「読むこと」に関して、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えたり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。</li> </ul> <p>(算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均と比較して、5段階の児童が少ない。</li> <li>「図形」領域が全体的に正答率が低い。特に図形を構成する要素やグラフに示された特徴などに着目し、問題を解決することに課題がある。</li> </ul> <p>(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験などで得られた結果を参照し、考察したり解釈したりすることについて課題がある。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5段階の割合が県・全国平均と比べ下回っている。</li> <li>「思考力、判断力、表現力等」に関する内容が全体的に低くなっている。特に「読むこと」に関して、登場人物の心情の変化について描写を基に捉えたり、場面と描写などを結び付けて解釈したりすることに課題がある。</li> </ul> <p>(数学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果が全国平均から大きく下回った。特に5段階の生徒が少なく、1段階の生徒が多くなっている。</li> <li>「数と式」、「関数」領域に関しては、全国平均と比較して、10ポイント以上低くなっている。</li> </ul> <p>(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均と比較して、5段階の生徒が少なく、2段階の生徒が多いことが大きな課題である。</li> <li>「地球」を柱とする領域に関しては、全国平均と比較して5ポイント近く低くなっている。様々な気象データから総合的に判断したり解釈したりすることに課題がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市として全教科を分析し、管理職研修会を始め、各種研修会で具体的な授業改善のポイントについて具体的に指導する。</li> <li>各学校に調査結果の分析及び改善策の検討を行わせる。その上で、改善策に係る取組は年間指導計画に位置付けさせ、確実に実践と見届けを行うよう指導する。また、学校の実態に応じて、資料提供や成果を出している学校の事例紹介などを積極的に行う。</li> <li>各学校に「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題などを計画的・継続的に活用するよう指導する。この中で、市教委が指導の重点とする内容については「今週の1問」として、全市の共通実践事項と位置付けて取り組む。</li> <li>学校訪問や校内研修、学力向上推進委員会等の機会を捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために指導を行う。特に対話活動や書く活動を重視した指導については、具体的に指導し、教員の指導力の向上を図る。</li> <li>タブレットの積極的な活用を図る。特に補充や習熟を図る場面で有効なAI型ドリルについて教師が積極的に活用できるように職員研修を充実させる。</li> <li>エリア推進スクールである坊津学園の公開研究会への積極的参加を呼びかけ、職員一人一人の授業改善や組織改善への意識を高めさせる。</li> </ul>
--

### 3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に職員及び学校運営協議会委員等に学力向上ロードマップを明確に示した学校では、職員及び保護者・地域の方々の学力向上に関する意識も高まり、継続的に好結果を残すことができています。</li> <li>達成目標を職員に数値で明確に示し、その具体策を共有した。</li> <li>問題作成から、配布、採点、事後指導まで管理職を含めたチームで組織的に対応した学校では、年間を通して継続的に取組がなされ、当初の目的を達成した。</li> <li>新聞記事を活用し、記事を要約したり、自分なりの批評をしたりする活動を取り入れた学校では、児童の読む力や書く力が大きく向上した。</li> </ul>
---



児童数	253	小学校数	17
生徒数	225	中学校数	3
計	478	計	20

南九州市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	9	24	38	27	3	8	19	41	29
	算数・数学	1	18	32	32	17	15	30	27	21	7
	理科	0	13	27	42	19	4	31	47	15	4

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は、国語は全国を上回った。算数は全国平均並、理科は全国を上回った。 (全国平均との差 国語:+1.4, 算数-0.2, 理科+3.7)</li> <li>・ 中学校は、国語は全国平均をわずかに下まわった。数学は全国平均を下まわった。理科は全国平均をわずかに下回った。(全国平均との差 国語:-1.0, 数学-6.4, 理科-1.3)</li> <li>・ 授業改善と演習問題への取組, 個別指導の徹底により各学校における結果が前年度よりも良くなってきた。特に演習問題の取組を徹底した学校の伸びが大きかった。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校において、演習問題の取組や授業改善の取組が充実してきた学校が増えているが、十分な成果が得られていない学校については、演習問題の授業における解説がなされていなかったりできるようになるまで繰り返し指導することが少なかったりしている。中学校においては、特に数学において基礎・基本の徹底が改めて必要なことが明らかになった。授業の中で知識を身に付けさせるために、ただ覚えさせるだけでなく、意味の理解をさせたり思考力・判断力を問う問題の中で知識を活用させたりする機会を増やす必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供たちが分かるようになるまで、できるようになるまで指導するという当たり前のことを今後も徹底するよう管理職研修会で具体的に指導する。特に授業改善のために研究授業を通じた研修を行う際に、子供たちの姿に視点を当てた授業分析の仕方について研修主任を中心に、市教委として具体的に説明する研修会を設定し、教員の授業改善に向けた意欲を高めるようにする。中学校数学については、全国的にも難しいとされた問題が多かったことから、出題された問題を参考に各学校で類似した演習問題に取り組みさせるようにする。小学校、中学校において実効性のあった取組は継続して取り組ませる。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究指定校としての取組を充実させたことで授業改善が進み、児童の学力向上も図られた。</li> <li>・ 常に全国平均を大きく上回る結果を目指してこれまでの取組, 授業改善・演習問題の徹底を継続し成果を上げている。</li> </ul>
---

児童数	128	小学校数	7
生徒数	128	中学校数	3
計	256	計	10

阿久根市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	1	12	39	34	14	1	10	21	38	30
	算数・数学	2	16	44	28	10	15	30	22	24	9
	理科	0	9	24	46	21	4	33	42	19	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校理科については, 4, 5の段階は, 前回(H30)と比較して増加している。昆虫の体のつくりを理解していること, 観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けていることが要因として考えられる。</li> <li>・ 中学校国語については, 4, 5の段階は前年と比較して増加している。行書の特徴を理解していること, 文脈に即して漢字を正しく書くことができていたことが要因として考えられる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校国語については, 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりすることに課題がある。</li> <li>・ 小学校算数については, 図形を構成する要素に着目して, ひし形の意味や性質, 構成の仕方について理解することに課題がある。</li> <li>・ 中学校数学については, 問題場面における考察の対象を明確に捉えることに課題がある。</li> <li>・ 中学校理科については, 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象に関する知識及び技能に課題がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職研修会等において, 結果の詳細な分析について指導を行う。</li> <li>・ 上位層への指導が不十分であることから, 学習者主体の個別最適な学びの実現に向け, 授業改善の具体について, 学校訪問等を通して指導する。</li> <li>・ 継続して成果が出ていない学校については, 指導主事等の訪問により, 「学力」の捉え方, 「授業改善」の在り方を中心に, 調査結果を用いて具体的に指導を行う。</li> <li>・ 演習問題を取り入れた授業改善が図られているかについて, 計画的に学校を訪問し授業参観を行い, PDCAのCの部分で学校が主体的, 機能的に把握できるように指導・助言を行う。</li> <li>・ 市学力向上研究協議会及び市教務主任等研修会において, 市全体の課題を共有し, 改善策を協議する。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一台端末を積極的に活用し, ドリルパーク等のAIドリルを利用して, それぞれの学力に応じた個別最適な学びの工夫を図っていた。</li> <li>・ 学力向上支援Webシステム等を計画的, 効果的に活用し, 資質・能力をベースとした授業改善を図っていた。</li> <li>・ 児童生徒の実態について, 職員研修等を通して, 詳細な分析が行われていた。</li> </ul>
---

児童数	435	小学校数	14
生徒数	425	中学校数	7
計	860	計	21

出水市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表、成果と課題、取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	10	25	35	27	5	10	19	38	28
	算数・数学	2	18	32	33	15	19	25	26	24	6
	理科	2	13	25	40	20	2	13	25	40	20

2 教育委員会としての成果と課題、課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校全教科の「知識・技能」の問題に関して、概ね7割程度の通過率であり、基礎的・基本的な事項の定着が図られている。</li> <li>・ 「思考・判断・表現」の問題に関して、例えば、次の問いの正答率に成果が見られる。 小学校国語「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」問題 小学校理科「問題を解決するまでに必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」問題 中学校国語の「書くこと」領域の問題</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体として、以下のような、資料から必要な事柄を捉えたり、自分の考え等を適切に記述したりする問題に課題がある。 小学校国語「書くこと」領域の通過率が低く、「自分の考えをまとめる」「自分の文章のよいところを見付ける」問題 小学校算数「加法と乗法のポイント数の求め方と答えを記述する」問題 小学校理科の記述形式、「自分の考えをもち、その内容を記述できる」に関する問題</li> <li>・ 中学校数学、理科の全領域の問題や、特に数学の「思考・判断・表現」の観点に関する問題に課題がある。</li> <li>・ 通過率に学校差や教科差があることも課題である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で意図的に全国学力・学習状況調査や高校入試問題等の過去問やかごしま学力向上Webシステムの問題を活用した演習問題に取り組み、定着を図るための解説や繰り返しの実施、個別指導や補充指導を徹底する。</li> <li>・ 全教科で、時間や字数制限を設定した上で、情報を短時間で正確に理解し、適切に表現する学習活動を実施する。</li> <li>・ 学習内容等、児童生徒が疑問をもった事柄について自分で課題を立て、自分の言葉でまとめる等、家庭学習と連携した「自学ノート」に取り組ませる。</li> <li>・ 「今週の一問」の配信の代わりに、タブレット上で活用できる演習問題のCBT化を行い、適切な活用の推進を図る。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿児島学習定着度調査終了後、各教科の分析を行い、定着度が低かった領域、問題等を抜粋し、朝の学力向上の時間を活用し、類似問題に取り組み、各担任(5年時・6年ともに)が解説を行った。</li> <li>・ 朝の活動等、学力向上の時間を設定した。定着を図る時間と活用力を身に付ける時間を分けたり、児童の理解度や学習スタイルに応じたコースを設定したり、きめ細やかな指導を実施した。</li> <li>・ 担任、管理職、理科専科、指導法改善担当等を中心に個別指導、補充指導をした。</li> <li>・ 「学校は楽しい」「学習は楽しい」と思う学級・学校経営を推進し、児童の居場所づくりや人間関係づくり、自尊感情の醸成を目指した体験活動の充実等、学習の基盤となる集団づくりを学校全体で行っている。</li> <li>・ 全校で自己有用感を高める研究を推進することで、質問紙でも8割の児童が「先生がほめてくれる」と答え、各教科でも無答率が減るなど通過率が少しずつ向上してきた。</li> </ul>
---

児童数	792	小学校数	27
生徒数	725	中学校数	11
計	1517	計	38

薩摩川内市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

人数割合 (%)		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	国語	2	11	22	40	25	3	8	22	40	27
	算数・数学	1	14	30	38	17	17	28	26	21	8
	理科	1	13	25	41	20	4	33	42	18	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正答率でみると, 小学校では, 国語は県・全国平均と同等で, 算数は県・全国平均を上回った。理科は県を下回ったが, 全国平均を上回っている。全体として県・全国平均を上回った。中学校は, 国語, 理科において全国平均との差が縮まった。本市が推進している「学級経営を基盤とした学力向上」の意識が浸透し, 授業改善に向けた職員研修の充実や学級経営の充実を目指した共通実践がなされた結果であると考えられる。また, 各学校において演習問題に計画的に取り組んだ結果と考えられる。</li> <li>・ 質問紙において, 小学校, 中学校ともに「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」と答えた児童生徒は, 県, 全国平均を大きく上回っている。本市の施策である「学級経営の充実」を通して「居場所づくり」「絆づくり」が行われてきた結果であると考えられる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語では, 小学校・中学校ともに「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において, 複数の叙述を基に, 登場人物の気持ちや情景などを読み取ったり, 自分の考えをまとめたりすることに課題がある。</li> <li>・ 数学では, 「数と式」の領域において, 数学的用語の意味や表し方についての理解や, 答えを導き出すための基本的な計算力に課題がある。</li> <li>・ 質問紙では, 授業におけるタブレットの使用について, 小学校・中学校ともに県平均は上回っているが, 全国平均からは大きく下回っている。また, 「自分には良いところがある」と答えた児童生徒が全国平均より低く, 自己肯定感の醸成が課題である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語では, 相手意識・目的意識をもたせ, 自分の考えの根拠となる情報を叙述などから取捨選択したり, 考えの理由などを相手に分かりやすく説明したりする言語活動を設定する。</li> <li>・ 数学では, 互いに数学的用語を確認したり, 解き方を比較したりするなど, 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し, 伝え合う活動を授業に取り入れるようにする。また, 振り返りの時間を確保し, 分かったことを表現できるような活動を設定する。</li> <li>・ 授業におけるICT活用について, 校内研修や各種研修会を通して理解を深めさせるとともに, 授業においてタブレットを用いた協働的な学びが促進され, 日常的に取り組むことができるような活用例をTeamsなどで共有できるようにする。また, 本市の施策である「魅力ある学校づくり」を全ての学校で推進し, 「居場所づくり」「絆づくり」の取組を更に充実させるようにする。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<p>【小学校】</p> <p>○ 校長のリーダーシップによる学力向上のための具体的なビジョンの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通実践事項の設定と学年会での自分の授業の評価, 振り返りの定期的実施</li> <li>・ 学力向上の職員研修の内容の見直し, 学力調査分析の仕方の改善と学年ごとの実態に応じた対策の強化</li> </ul> <p>○ 各学年部のアイデアを生かした家庭学習等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週末の学習定着度調査等の過去問への挑戦</li> <li>・ ロイノート等を活用した教師による週末課題の解答・解説, 誤答問題への繰り返し4回チャレンジ</li> <li>・ 3年生以上の読解力を高めるための取組(新聞記事の要約等)の継続的实施</li> </ul> <p>【中学校】</p> <p>○ 授業改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供が主役となる学びに向けて「考えるための技法」を活用した「学び合い」の場の設定</li> <li>・ 生徒自身による学習の見通しと振り返りを可能とする単元計画表の作成</li> </ul> <p>○ 「学びの羅針盤」の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修における, 授業の展開例についての共通理解, 授業づくりの参考としての活用</li> </ul> <p>○ 過去問・演習問題の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去問・演習問題の全教科週1回実施及び100点チャレンジの実施</li> <li>・ Web問題に自主的に何回も取り組めるような「全員突破」のコーナーの設置</li> </ul> <p>○ 補充指導・個別指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「トレーニングタイム」(週2回放課後15分間)による重点教科の数学, 英語の基礎問題を中心とした取組</li> </ul>
--

児童数	148	小学校数	8
生徒数	137	中学校数	1
計	285	計	9

さつま町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表、成果と課題、取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	1	7	25	43	23	1	9	24	37	29
	算数・数学	1	11	39	35	15	12	27	32	23	5
	理科	0	5	25	49	21	4	34	47	14	1

2 教育委員会としての成果と課題、課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「今週の一問」「さつままるチャレンジ」「さつままるベーシック」「過去問題」などの良問に計画的に取り組むことで、小学校においては、全ての教科で全国平均または、それ以上の結果となった。無答率についても全国と比較して少なく、最後まで粘り強く解く姿勢が見られた。</li> <li>・ 中学校においては、全国平均に届かなかったものの、活用を図る問題については、全国の平均正答率を上回る問題もいくつかあった。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去問などの取組については、効果があったと考えられるが、学校間による差が大きく、問題の解説や見届けが不十分であると考えられる。</li> <li>・ タブレット端末の活用について、中学校は高い頻度で活用が図られているが、小学校については、学校間の活用に差が見られた。</li> <li>・ 小学校・中学校ともに新聞の活用について、全国より低い傾向にある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「今週の一問」について、各種調査における正答率の低い問題を中心に出题していく。また、実施状況を確認し、継続的に学校訪問を行い、改善がなされるまで指導を徹底する。</li> <li>・ 各種調査のCBT化に向け、町独自の問題集などタブレットを活用して問題に挑戦できるように、調整していく。</li> <li>・ ICT活用に関する研修を定期的に行い、一人一台端末を積極的に授業に活用し、主体的・対話的で深い学びのある授業の改善を図ったり、ドリル教材を活用し、「ラスト10分の充実」を図ったりする。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員で全国学力・学習状況調査の問題等を解いたり、分析結果を協議したりして、「児童に今求められている力とは何か」を確認し、授業改善を図った。</li> <li>・ 「今週の一問」「さつままるチャレンジ」「さつままるベーシック」「過去問題」などを計画的に行うとともに、管理職も含め、複数の教職員で補充指導を行ってきた。</li> <li>・ タブレット端末を積極的に活用したり、校内研修で効果的な活用について研修を深めたりすることで、児童が自分の考えを積極的に表現する場の設定の研究を深めてきた。これにより、今回の調査結果では、前回と比べ、小学校において全ての教科で全国平均を大きく上回った。</li> <li>・ 「さつまタイム」(帰りの会の時間に、その日の家庭学習の内容や時間について自分で計画を立てる取組)を確実に実施し、家庭教育の充実を図ってきた。</li> </ul>
---

児童数	73	小学校数	7
生徒数	59	中学校数	5
計	132	計	12

長島町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	4	8	27	39	22	0	8	12	49	31
	算数・数学	1	11	52	22	14	12	32	26	27	3
	理科	0	7	26	47	20	0	32	49	15	4

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は, 理科が全国平均より6.7ポイント上回った。正答分布でも, 1と2の児童が少なく, 4の児童が多くなっている。その理由として, 児童質問紙や学校質問紙の結果から, 問題解決的な学習や実験・観察を充実させてきたことが挙げられる。</li> <li>・ 中学校は, 国語が全国平均より4.0ポイント上回った。正答分布でも, 1と2の生徒が少なく, 4と5の生徒が多くなっている。その理由として, 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や演習問題の取組が充実してきたことが挙げられる。また, 理科が全国平均より0.4ポイント上回り, 平成30年度より1.4ポイント向上した。その理由として, 小学校と同様, 問題解決的な学習や実験・観察を充実させてきたことが挙げられる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校は, 国語が全国平均より2.6ポイント, 算数が3.2ポイント下回った。国語は, 正答分布で1の児童が4%おり, 4と5の児童が61%いることから, 学力の差が見られることが分かる。内容別では, 「読むこと」が全国平均より8ポイント下回っている。算数は, 正答分布で3の児童が52%おり, 上位層が前回よりも減っている。領域別では, 「データの活用」が8ポイント下回っている。また, 児童質問紙から, 算数への関心が全国平均より少し低く, 算数の授業の在り方を見直す必要がある。</li> <li>・ 中学校は, 数学が全国平均より6.4ポイント下回った。正答分布でも, 1と2の生徒が44%と多く, 下位層の学力の底上げが必要である。領域別では, 特に, 「図形」と「データの活用」が約9ポイント下回っており, 数学の授業改善が特に必要である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校では, 国語と算数ともに, 特に「思考・判断・表現」に課題が見られるため, 各学校, 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指し, 授業改善に向けた校内研修を充実させるように指導する。また, 各学校, 過去問や演習問題を活用し, 身に付けた「知識・技能」を生かして, 思考・表現する機会を増やし, 管理職が見届けまで行うようにする。</li> <li>・ 中学校では, 数学において「思考・判断・表現」に課題が見られ, 下位層の学力の底上げが必要であるため, 既習の知識及び技能をつなげて理解したり, 考えを形成したりし, それを表現させる授業を目指し, 授業改善を図るよう指導する。また, 各学校, 過去問や演習問題を活用し, 身に付けた「知識・技能」を生かして, 思考・表現する機会を増やし, 管理職が見届けまで行うようにする。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町教委が配信する「今週の一問」(演習問題)を, 朝の学力向上タイムや週末の課題で継続的に取り組み, その後, 解説を行い, やり直しまで実施し, 確実な定着を図っている。また, 管理職は, 誤答傾向を確認するなど, 見届けまで行っている。</li> <li>・ 地区指定「学力向上」研究協力校を引き受け, 研修係を中心とした研究推進委員会を機能化させ, 校内研修の充実を図り, また, 各教科, 研究テーマや研究の視点等に沿った授業改善を行うことで, 職員全体の授業改善や校内研修への意識が向上し, 学校全体での学力向上に取り組む雰囲気の醸成につながった。</li> <li>・ 各教科, 平日の家庭学習(宿題)は, 宅習で個別の課題に沿った形で進め, 週末の家庭学習(宿題)については, Web問題などの演習問題を行うようにし, それを翌週の朝の学力向上タイムで解説・解き直しを行うようにしたことで, 多くの「思考・表現」を発揮させる良問に挑戦することにつながり, 諦めずに問題を解く姿が増え, 各種調査の「思考・判断・表現」が向上してきている。</li> </ul>
--

児童数	1181	小学校数	34
生徒数	1037	中学校数	12
計	2218	計	46

霧島市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	12	24	34	27	2	9	19	38	31
	算数・数学	3	16	33	33	15	16	26	26	24	8
	理科	1	12	23	43	21	3	38	39	17	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の正答分布を昨年度と比較してみると, 中学校国語において, 「3」の割合が減少し, 「4」「5」の割合が増加した。また, 小学校算数において, 「5」の割合が増加した。</li> <li>小学校及び中学校の国語の「書くこと」において, 平均正答率が全国平均を上回った。</li> <li>小学校国語・理科, 中学校国語において, 記述式の平均正答率が全国平均を上回った。</li> <li>小学校の全ての教科において, 無答率が全国平均を下回った。</li> <li>小学校国語の漢字や理科の実験器具の名称についての正答率が全国平均を上回っている。基礎的な内容については, 概ね定着している。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学において, 全国平均を5ポイント以上下回った。中学校数学の正答分布を昨年度と比較してみると, 「4」「5」の割合が減少し, 「1」「2」「3」の割合が増加している。上位層が減少している。</li> <li>小学校, 中学校ともに, 全ての教科において「思考・判断・表現」が全国平均を下回っている。</li> <li>中学校は, 国語の「書くこと」以外, 全ての内容で全国平均を下回っている。特に数学は「数と計算」「図形」「関数」で, 全国より6ポイント以上下回っている。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の課題である算数, 数学に限らず, 全ての教科の学力の向上を図るために, 各学校に「学力向上プラン」を作成させ, 年間を通したPDCAサイクルを機能させるよう指導している。本年度は, 「学力分析シート」を作成させ, 各種テスト(定期テスト, 実力テスト, 単元テスト, まとめテスト等)の目標点数とその結果の提出を求めている。短期スパンで自校の学力向上の取組を振り返らせ, 自校の取組の見直しを図らせている。</li> <li>「思考・判断・表現」が, 全国平均を下回っていることから, 管理職研修会や校内研修において「思考させる授業づくり」について指導を進めている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のもと, 対話活動に積極的に取り組んでいる学校が多く見られるが, 目的が不明瞭な対話活動が散見される。「目的を明確にした対話活動」や「書く活動とつなげた対話活動」等について指導し, 児童生徒の「思考」を深めるようにしている。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>本市で配信している「霧島市今週の1問」(小5年～中3年, 毎週1教科1枚ずつ)について, 解かせるだけでなく, 「解説」の時間を設定している学校や確実に定着するまで繰り返し取り組んでいる学校で, 正答率の向上が見られた。また, ロイロノートで児童のタブレットに配付し, 家庭でオフラインで取り組んでいる学校も見られた。</li> <li>朝の学力向上タイムで「今週の1問」や「Web問題」, 「過去問」等に取り組んだ。解説の時間には, 担任に加え, 管理職や専科指導教員も学級に入り, 全職員で個別指導を行った。</li> <li>全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査において正答率が低かった問題については, 定期テストで出題し, 定着が図られているか確認している。</li> <li>昨年度の鹿児島学習定着度調査終了後, 全職員で結果を確認し, 自校の学力の現状に対する危機感を共有した。その後, 全職員で問題を解き直し, 誤答傾向や共通実践事項について熟議し, 全国学力・学習状況調査に向けた取組へとつなげた。</li> </ul>
---

児童数	154	小学校数	14
生徒数	139	中学校数	2
計	293	計	16

伊佐市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	11	24	39	24	4	13	27	35	22
	算数・数学	2	18	40	24	17	23	40	23	13	1
	理科	1	13	18	47	21	6	50	38	7	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の小学校の高学年に中学校の教諭(理科担当)を配置し,より専門的な指導を行っている。また,小規模校では,理科支援員が配置されており,より充実した指導が可能になっている。小学校理科が全国に比べて3.7%高い。</li> <li>演習問題に取り組む時間を担任や教科担当だけに任せるのではなく,学校全体で複数の教員が,習熟度に合わせて指導ができるように,組織的に取り組んでいる。小学校は全国平均正答率と同等の結果になっている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の平均正答率が非常に低い。特に,数学については全国より16%も低く,正答数が9~14問の生徒が少ない。長文やグラフ,図から情報を収集して思考・判断・表現する問いの正答率が22.3%と非常に低い。特に,関数の問いについては,全国平均正答率の半分程度である。</li> <li>事象を数学的に解釈し,問題解決の方法を数学的に説明することの正答率が20%と低い。</li> <li>教師主体の授業が多く,児童生徒主体の問題解決的な授業になっていない。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市主催の授業力アップの研修会を実施して,授業づくりについて学ぶ機会をつくる。</li> <li>県総合教育センター,教育事務所,市教育委員会が連携して,各学校の校内研修に出向き,指導案検討の段階から,授業づくりに関わり,授業改善を促す。</li> <li>演習問題への取組について,学力向上対策の研修会で効果的な実践例を発表してもらい,他の学校の取組の参考にしてもらう。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>演習問題の解説を個に応じることができるように,複数の教員で対応することで,理解度に合わせて指導を行うことができた。</li> <li>演習問題への取組を家庭学習で終わらせて,解説する時間を多く確保した。</li> <li>授業改善のために,毎月1回に相互授業参観を実施し,互いに改善点を話し合う時間を確保している。(まだ,学力検査の結果は出ていないが,学校全体の意識改革につながっている。)</li> </ul>
---



児童数	734	小学校数	17
生徒数	707	中学校数	5
計	1441	計	22

始良市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	1	8	20	37	34	3	7	16	36	37
	算数・数学	1	11	31	37	20	14	21	27	26	12
	理科	1	9	18	46	26	1	30	40	23	4

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市全体の共通実践の重点として、演習問題等の活用(授業づくりに生かす・習熟に生かす)、書くこと、学校組織全体での取組の推進を掲げ、働きかけを行ってきた。その結果、学習への構えが身に付くとともに、無答率については低い水準が保たれ、学力においても、安定的に一定の水準に達するようになってきている。</li> <li>各校におけるこれまでの成果とその要因を可視化し、それらを強みとして、組織全体で一つ一つ積み上げていく働きかけを行ってきた。その結果、各校の実態に応じて、学力向上の取組が焦点化・具体化され、学力の維持・向上が図られるようになってきている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の学力は、全教科で全国平均と比較して高いが、中学校は、数学については、全国平均を下回っている。この要因として、思考・判断・表現させる授業が実現されていないこと、基本的な計算等の習熟への取組が十分にされていないことにあると考えられる。</li> <li>数学については、特に、正答数が少ない生徒の割合が多く、これは、本調査に限らず、他の学力調査において、他の学年(小学校・中学校共通)へも見られる傾向である。</li> <li>中3については、教科学力と比べて、学習に対する興味・関心や規範意識・自己有用感が低い。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上推進会議や管理職研修会を通して、本市の課題、各校における課題分析や課題改善の方策の立案等について指導している。特に、課題のある学校については、学校訪問、教頭自主研修会、学力向上に特化した指導主事による学校訪問・研修への関わり等を通して、学校の実情に応じた具体的な指導助言を行う。</li> <li>課題の大きい数学については、市主催の指導力向上セミナーによる演習問題等を活用した授業づくりの講話・演習、授業研究を通じた算数・数学科指導法研修会の実施の他に、今回の結果を受けて、中学校数学教諭全員を対象とした悉皆研修を本年度の早い段階で実施する予定である。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で、一単位時間において、自分の考えを書く、振り返りを書く等、「書く」活動を意図的に設定した。</li> <li>得点分布図をもとに、下位層の児童の実態分析を行い、つまづきを明確にした上で、個に応じた指導を充実させた。</li> <li>指導過程における指導の重点部分を共通実践事項として設定し、校内研修や学年会等において、定期的に、実施状況や成果・課題等について協議した。</li> <li>各種学力調査の分析を基に、各教科における重点指導内容を明確にして授業を行った。</li> <li>定着を図る時間を確実に確保し、練習問題や演習問題等に取り組ませることを徹底した。</li> <li>自分の考えの変容を、子ども自身が自覚し、次の学びへ向かう力や態度を育てることをねらいとして、授業の終末のみではなく、単元全体の「振り返り」を行わせてきた。</li> <li>取り組ませるだけでなく、確実な見届けを行い、子どもたちの「分からない」を放置しないようにした。</li> <li>全国学力・学習状況調査や他の学力検査をもとに、全職員で「求められている学力」及び「今後の授業のあり方」について考える時間を十分に確保し、互いの気付きや改善策を共有した。</li> </ul>
---

児童数	61	小学校数	5
生徒数	58	中学校数	2
計	119	計	7

湧水町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	10	26	34	28	0	9	16	33	42
	算数・数学	0	18	35	33	14	12	31	29	24	4
	理科	2	7	26	36	29	0	31	47	19	3

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校理科, 中学校国語科において, 全国平均正答率を大きく上回っていた。</li> <li>本町では, 「かごしま学力向上Webシステム単元領域別問題」などを全小・中学校で自校化し, 年間計画に位置付けて取り組んできた。これにより, 年間を通じて良問に挑戦する機会ができて成果につながったと考えられる。また, 毎年, 町内全小・中学校への学校訪問を実施し, 教職員の指導力向上について指導を行い, 学力向上推進会議や管理職等研修会, 指導力向上研修会, 小中連携研修会などの町行事では外部人材を計画的に講師として招聘し, 教職員の資質・能力の向上が図られるようにしている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学科において, 全国平均正答率を大きく下回っていた。</li> <li>中学校数学科の平均正答率分布をみると, 1・2段階が43%で下位層の割合が高くなっていた。中学3年生の結果ではあるが, 令和3年度の調査においても同様の傾向となっているので, 今回の結果は, 憂慮すべき課題の一つと言える。</li> <li>また, 中学校数学科において, 領域別平均正答率は, B図形, C関数が特に低かった。小学校算数科は全国平均正答率と同程度であったが, 領域別平均正答率は, C変化と関係が特に低かった。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まず, 全教職員が学力向上に対し主体的に取り組むように, 学力向上アクションプランの実践・見直しや学力向上組織の活性化を図るため, 管理職や学力向上担当, 研修担当などへの適切な指導助言や資料提供などを充実させる。</li> <li>次に, 算数・数学科に特化した学力向上を図るため, 小中連携研修会や町教科等部会などを中心として, 算数・数学科の学びをつなぎ発展させる指導法改善や町一体となって取り組む学力向上共通実践事項などの設定, 実践を推進する。</li> <li>最後に, 小・中学校9年間修了後も, 夢をもって未来を拓く心豊かでたくましい人づくりが持続できるように, キャリア教育や心の教育, 五感を働かせ体験のある教育などの充実に関しても, 指導助言を適宜行っていくようにする。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<p>○ A小学校の取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶことの楽しさを実感できる授業の構築</li> <li>学びの後の確実な振り返り「わきでついとく」と見届けの実施</li> <li>個に応じた指導の充実(教えて考えさせる授業, 表現活動の充実)</li> <li>「トロタイム」「漢字力・計算力テスト」等, 基礎基本の確実な定着</li> </ul> <p>○ B小学校の取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「きらきらタイム」毎週火・木曜日の朝(10分), 個に応じた学習</li> <li>「チャレンジタイム」毎週金曜日の朝(20分), 学力向上を図る</li> <li>「漢字・計算力20問テスト」の実施と見届け</li> </ul> <p>○ C中学校の取組事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝活動での学習会の実施・・・毎週木曜日</li> <li>指導5則(授業充実のための3ポイント), 授業の受け方5ヶ条に基づく指導法改善</li> </ul>
---

児童数	953	小学校数	23
生徒数	953	中学校数	12
計	1906	計	35

鹿屋市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	13	24	37	23	2	10	23	36	29
	算数・数学	2	18	32	32	16	17	26	27	21	9
	理科	2	14	24	40	20	3	32	44	17	4

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校理科は、県を下回ったが、全国を上回った。また、前回より大きく上回った。 (理科「-2.3」→「+1.7」)</li> <li>・ 中学校国語、理科は、前回より全国との差が縮まった。 (国語「-2.6」→「-2.0」、理科「-2.0」→「-1.3」)</li> <li>・ 小・中学校ともに、どの教科も無解答率が全国より低かった。また、記述式問題の無解答率も全国より低かった。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校国語、算数は、県・全国を下回った。また、前年度よりも全国との差が広がった。 (国語「-0.7」→「-2.6」、算数「-1.2」→「-2.2」)</li> <li>・ 中学校数学は、全国を大きく下回った。また、前年度より大きく下回った。 (「-4.2」→「-6.4」)</li> <li>・ 3教科合計で比較すると、小・中学校ともに、二極化が進んだ。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職研修会や学校訪問を行い、「PDCA3サイクル」(学期毎にPDCAサイクルを行い、課題解決・改善を行うこと)の取組状況を随時確認する。特に、管理職による見届けとフィードバックが徹底するよう指導を行う。</li> <li>・ 市主催の学力向上事業、研究協力校による研究公開の充実を図ったり、教科等の指導に関する情報発信を行ったりすることで、教職員一人一人の授業力向上に努める。特に、授業のラスト10分の充実を図ることができるようにする。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「校長室便り」「研修係便り」を積極的に発行し、職員の意識改革を行っている。</li> <li>・ 全校体制での取組を推進している。特に、学習指導委員会等の充実を図り、共通理解・共通実践を行っている。</li> <li>・ 2週間に1回、教職員一人一人が共通実践事項についての振り返りを行い、個人ファイルに記録を残している。また、管理職による見届け・フィードバックを行っている。</li> <li>・ 管理職による授業参観後のフィードバックを具体的にしている。</li> <li>・ 相互参観授業や研究授業を積極的に行っている。</li> <li>・ 全国学力・学習状況調査問題を、全職員で解いている。</li> <li>・ 学習過程に「振り返り」を確実に位置付け、記述力を高めたり、知識・技能の定着を図ったりしている。</li> <li>・ 読解力向上に向けて、タブレットを活用しならMEXCBTやNIEなどの取組を進めている。</li> <li>・ 演習問題を計画的に取り組んでいる。また、できるようになるまで個別指導を行っている。管理職による見届けを徹底している。</li> </ul>
--

児童数	73	小学校数	7
生徒数	85	中学校数	1
計	158	計	8

垂水市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表、成果と課題、取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	4	32	40	22					
	算数・数学	3	10	33	41	14					
	理科	3	11	27	40	19					

2 教育委員会としての成果と課題、課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校国語の平均正答率が全国を0.6ポイント下回ったものの、小学校算数科と理科の平均正答率が全国を上回っている。</li> <li>・ 中学校国語では、「知識及び技能」の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が、全国・県を上回っている。</li> <li>・ 中学校数学では、「データの活用」の領域の平均正答率が、全国・県を上回っている。</li> <li>・ ICT機器を活用した学習状況では、友達と意見交換をしたり、自分の考えをまとめ、発表したりする場面で「活用している」と回答している児童の割合が全国・県を上回っている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校理科の「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、全国・県を上回っているものの、他の区分・領域より10ポイント以上低い。</li> <li>・ 中学校数学と理科の正答率分布において、1・2段階の生徒の割合が、いずれも50%前後である。</li> <li>・ 中学校数学における無解答率の割合が高く、二極化の傾向が見られる。</li> <li>・ 中学校理科の21問のうち、11問の正答率が40%以下であり、「知識・技能」の観点に関する問題では、7問中5問が全国・県より10ポイント以上下回っている。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の児童生徒の実態や学力向上の取組に応じた、具体的な学力向上策や授業改善の視点等について、管理職研修会や学校訪問、校内研修などの機会に指導する。</li> <li>・ 中学校数学と理科では、身に付けるべき資質・能力を細分化したり調査問題作成の枠組みを示したりして、授業改善の視点を明らかにさせる。</li> <li>・ 個別指導の充実を図るために、諸学力調査の分析方法や改善策について各学校に指導し、授業や朝の活動等での実施を見届ける。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力分析で検討した共通実践事項を教科ごとにまとめ、重点的に取り組んでいる。</li> <li>・ 習熟の時間を確保するために、導入で取り組む課題を宿題とする学習形態を取り入れている。</li> <li>・ 算数を中心に予習を取り入れている。</li> <li>・ 朝の活動時間に、演習問題に取り組む時間の設定をしている。(毎週1~2日)</li> <li>・ 授業のまとめの際に、ロイノートを用いて全体で共有し、理解を深めている。</li> <li>・ 国語や社会等において、語句や人物などについて調べるなど、授業の予習に取り組んでいる。(小学校高学年)</li> <li>・ その日の授業で学んだことを踏まえた宿題を出すように共通して取り組んでいる。</li> </ul>
--

児童数	251	小学校数	19
生徒数	264	中学校数	3
計	515	計	22

曾於市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	12	30	33	24	2	12	17	45	24
	算数・数学	1	15	37	33	15	17	28	27	23	5
	理科	1	9	28	45	17	3	39	43	14	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校理科については, 全国の平均正答率を上回った。それ以外の教科は, 平均正答率を上回ることができなかったが, 小・中学校国語, 小学校算数は, 前年度よりも全国・県との差が縮まった。</li> <li>特に小学校の大規模校で, 全国・県との差が大きく縮まるなどの成果が見られた。この2年ほど, 職員の意識改革と授業改善に取り組んだ結果が, 徐々に実を結びつつあると捉えている。</li> <li>自己有用感・規範意識等について, 全国比より概ね高い結果を示した。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの教科で, 全国・県の平均正答率に届かない状況が続いている。特に中学校数学に関しては, 全国・県平均より高かった昨年度から大きく下がり, 平均を下回る結果に転じた。</li> <li>正答数分布グラフからは, 多くの教科で, 全国・県と比して上位層が少ない傾向が見て取れる。</li> <li>下位層への対応を重視するあまり, 上位層の知的好奇心を刺激できず, いわゆる「浮きこぼれ」の児童生徒を生み出していないかという意識で授業設計に取り組ませる必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集団の「平均値」の比較のみで分析を行うと, 見えにくくなる面が生まれがちである。平均値が比較的低いからといって, 下位層ばかりに注目した対策を施せば, 上記のように上位層が少ない状況を打破することにはならない。上位層から下位層まで全ての児童生徒が活躍し, 学び合う授業が各校にて実現するように施策を実施する。</li> <li>まずは10月に, 市の学力向上研究指定校授業公開(講演: 佐藤 学 東京大学名誉教授)を行い, これを契機に「学びの共同体」の理念を浸透させ, 「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体となった授業への方向付けを行う。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職だけでなく, 「学力向上対策推進係」を中心に分析を行った結果を全職員にプレゼンテーションし, それを基に課題点や今後の取組に関する共通理解の時間を設定し, 全校体制で学力向上に向かう機運を醸成した。</li> <li>全国学力・学習状況調査の問題にただ取り組ませるのではなく, 「このような問題に対応できるような授業改善」への意識付けに活用し, その上で子供たちが問題に触れる機会を織り込むよう方向付けた。</li> <li>授業においてはグループでの「学び合い」を可能な限り取り入れ, 自分の考えを表出することを苦手とする子供も活躍できる授業設計に変えていった。</li> <li>令和3年度コアスクールプロジェクトエリア推進校として, 「学び合い」に関する研修を行い, 全ての子供が主体的に参加する授業の構築に努めた。</li> <li>「ロイノート」を用いて, 自分の思考をまとめて発表させ合ったり, AIドリルを活用してそれぞれの子供の課題に応じた問題演習の時間をとったり, GIGAスクールタブレットを最大限活用し, 「個別最適な学び」「協働的な学び」が実現するよう努めた。特に複式学級においては, 「わたり」の裏の学年でタブレットを活用させることによって, 教師のいない時間帯の学びの充実が図れた。</li> <li>発展学習を週末の宿題として設定し, その週での学びが定着・活用されるようにする中で, いわゆる「浮きこぼれ」の子供が出ず, 全ての子供にとって授業が知的な刺激に満ちたものとなるよう努めた。</li> </ul>
--

児童数	278	小学校数	16
生徒数	248	中学校数	5
計	526	計	21

志布志市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	4	13	23	37	23	6	14	21	33	26
	算数・数学	4	16	34	31	15	25	28	22	18	7
	理科	2	13	21	44	20	7	45	34	12	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校・中学校ともに国語は県平均を下回ったが、「書くこと」の領域は県平均を上回る結果となった。</li> <li>小学校においては、各教科とも全国平均と比べ無解答率が減少した。</li> <li>学力向上に向けた取組として、①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善②演習問題の計画的な実施③補充指導、個別指導の充実と、県・地区・市とベクトルを揃えたことで、各学校が取り組むべき内容が明確になるとも、各校のよい取組が他校へ波及している。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校においては、国語・算数、中学校においては全教科とも全国平均を下回る結果となった。また昨年度に比べ、全国との差が広がる結果となった。</li> <li>学校間での正答率の差が大きい。また、昨年度に比べ標準偏差も大きくなり、個人差も大きくなる結果となった。各学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、演習問題や個別指導への取組に差が見られる。</li> <li>昨年度より継続して成果の見られない学校があり、学力調査が結果分析のみに終わり、全校体制による、いつ、だれが、どこで、何を、どのようにといった具体的な授業改善にまで生かされていない。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職研修会における具体的な方策の見届け、指導主事による校内研修への計画的・積極的関わりによる授業改善を行う。</li> <li>市授業力アップセミナーや鹿児島大学附属小・中学校派遣研修による教職員の資質向上を図る。</li> <li>鹿児島大学等との連携や大学教授アドバイザー委嘱を行い、専門性を生かした授業づくりの推進を行う。(講演会・校内研修)</li> <li>継続して成果の出ていない学校に対して継続的に指導を行い、改善がなされるまで徹底する。</li> <li>夏休み学習教室や土曜日に行う「志学教室」など学校教育外における学びの場の充実を図る。</li> <li>「学校の力、家庭の取組、地域との支え合い」をキャッチフレーズに、学校だけでなく、家庭学習の習慣化やメディア時間の縮減の啓発、学校運営協議会の中での学力についての協議など、三者が協働した学力向上の推進を図る。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く際に、条件を与えたり、字数・時間などの制限を設けたりする活動を全学年で組織的に行った。</li> <li>自分の考えをまとめ発表する場面や意見交換する場面において、三角ロジックやペンタゴン・ロジックを導入するとともに、タブレットなどのICT機器を活用した。</li> <li>「大隅終末ベーシック」の基本を押さえた授業づくりを再度全職員で確認し、管理職による見届けまで徹底して行った。</li> <li>Web問題、重点課題、よか問等の演習問題の通過率の低かった問題をできるまで徹底して行った。</li> <li>単式学級においても複式でのガイド学習を取り入れ、教師主導でなく、子供主導による個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、組織的・継続的に取り組んだ。</li> <li>全職員1回の研究授業、参加型授業研究、相互授業参観を実施した。</li> <li>学力向上対策会議(学校運営協議会+学年代表保護者+職員代表)を実施した。</li> <li>将来について家庭で語る時間の意識化と将来の目標を明確にする語り掛けを行った。</li> <li>3つの時刻(起きる時刻・学習を始める時刻・寝る時刻)の定着による生活リズム・家庭学習の習慣化を図った。</li> <li>自己肯定感を高めるために、社会的な自信に繋がる検定・各種コンクールへ積極的に参加した。</li> </ul>
--

児童数	96	小学校数	6
生徒数	109	中学校数	1
計	205	計	7

大崎町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	5	26	43	24	3	14	16	38	30
	算数・数学	1	15	46	25	14	25	24	34	13	5
	理科	0	9	27	44	20	5	35	43	17	1

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小国: 「書くこと」領域において2題とも, 全国平均を超えている。</li> <li>・ 中国: 第5段階の生徒が(R3) 21% → (R4) 30%と増加した。</li> <li>・ 小算: 「数と計算」領域において, 全国・県平均とも超えている。</li> <li>・ 小理: 全ての領域で全国平均を超えている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小国: 「読むこと」で, 4題中3題が全国・県平均を下回っているため, 文章から情景や心情を捉えることに課題がある。</li> <li>・ 中国: 「話すこと・聞くこと」で論理の展開に注意して聞くことに課題がある。</li> <li>・ 小算: 第1・2段階の児童が(R3) 5% → (R4) 16%と大きく増加した。</li> <li>・ 中数: 第1段階の生徒が(R3) 5% → (R4) 25%と大きく増加した。</li> <li>・ 中理: 「エネルギー」で, 4題全て, 全国・県平均を下回っており, 科学の基本的な概念等の構築に課題がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修において, 学習内容との整合を図りながら, 子供の姿で協議する授業研究の推進を管理職の研修会や授業力向上委員会において情報提供する。</li> <li>・ 学校訪問時における授業について, 「見方・考え方」を働かせる指導についての改善点を, 指導する。</li> <li>・ ICT機器等を活用し, 個別最適化された学習(児童生徒が今より, あと1問多く解ける力をつける指導)の推進が図られるよう, 研修会を計画する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝の活動で週2回「ドリルタイム」を設定し, 基礎的・基本的な知識及び技能の習熟を図っている。</li> <li>・ ICTの活用により, 自分の考えを表出する機会を増やす授業を進めている。</li> </ul>
--

児童数	73	小学校数	2
生徒数	65	中学校数	1
計	138	計	3

東串良町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	8	19	31	32	10	5	11	32	35	17
	算数・数学	4	26	40	19	11	16	32	20	26	6
	理科	3	20	29	37	11	5	38	37	17	3

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記述式問題で, 県や全国の通過率を上回る結果を出した学校が見られた。</li> <li>鹿学定の結果を受け止め, 改善に向けて具体的な取組を一つ一つ進めた学校が, 全学調で結果を出した(全教科平均超え)。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無解答が多い。</li> <li>条件を満たしていない誤答が多い。</li> <li>長い文章を短時間で読み, 全体像を把握することに困り感があると思われる。</li> <li>漢字の書き取りという基礎基本の部分で, 通過率20~30%台と落ち込んだ。</li> <li>資料の読み取りに関する誤答が多い。</li> <li>非認知能力の分析から, 授業に対する意欲や, 家庭での学習時間やネットの視聴時間などに課題のある児童生徒が少なからずいることがわかった。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学校を訪問し, 授業参観をするとともに, 職員や管理職との語り込みを通して, 「●自分の考えや振り返りなど, 書かせる指導の日常化」「●書くことへの態度面の育成」「●解き方の例示と同じように解く練習の蓄積」「●正しい答えを写させる指導の実施」「●問いに正対して答える習慣の育成」「●資料と選択肢を結んだり, 問題文に書き込んだりなどの具体的な作業」「●基本的な資料の読み取り指導の強化(表題, 出典, 縦軸, 横軸, 単位等)」等について, 理解を促す。</li> <li>本年度から町で設定した「●必達目標(1分間の音読の文字数)」を継続するとともに, 長文を想定して「●3分間の文字数」についても推進する。また, 「●漢字の必達目標(例:80%)」についても, 設定を検討していく。</li> <li>非認知能力の分析等から, 各学校における共通実践事項を作成し, 定期的に振り返る取組を推進する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を活用して自分の考えを記述させる指導に, 一年間継続して取り組んだ。</li> <li>鹿学定の解き直しを確実にさせた。</li> <li>鹿学定の結果に対する5年担任の悔しい思いを, 新年度, 管理職が6年担任に語り聞かせ, つないだ。</li> <li>よか問(演習問題)の実施状況の確認表を作成し, 進捗を確認した。</li> <li>指導に対する様々な考え方はあったものの, 職員が常に子供に目を向けていた。</li> <li>「やれることは全部やる」という思いを, 管理職がもっていた。</li> </ul>
--



児童数	48	小学校数	6
生徒数	54	中学校数	2
計	102	計	8

錦江町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	10	38	33	17	2	6	17	34	41
	算数・数学	0	17	27	46	10	9	26	33	26	6
	理科	0	15	33	42	10	6	24	46	17	7

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校において、授業に振り返りを位置付けることが徹底できた。鹿児島学習定着度調査と比較しても、学力の向上が見られた。記述式の問題の正答率も県、全国の平均を大きく上回っており、記述力の向上が見られた。</li> <li>・ くわがたドリル(錦江町独自に作った計算ドリル)、タブレット端末に入っているAIドリルを活用し、基礎的・本的な事項の定着を図ることができた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習問題を計画的に行ってきたが、見届けの部分が不足していた。学校の取組の様子を教育委員会としても密に確認し、指導助言を行っていく必要がある。</li> <li>・ 振り返りや自分の考えを書く活動の推進を行ってきたが、小学校において課題が多く見られる結果となった。特に記述を伴う思考の問題に対して正答率が低かった。振り返りの活動がマンネリ化していないか、再度見直していく必要がある。</li> <li>・ 子供たちの協働的な学びが十分に実践できていなかった。子供がじっくりと考え、子供同士が考えを交流し深めていく授業への改善を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を解決するために、「書く」活動を充実させていく。「自分の考え」や「振り返り」を100字程度で記述する活動を取り入れる。その際、使用する言葉、書く観点、書く様式、書く時間などの条件や制限を意図的に与え、自分が書きたいことを端的に記述する能力を養っていく。</li> <li>・ 演習問題の計画を立て、週1回以上の実施を継続するとともに、管理職、教育委員会による見届けを徹底する。</li> <li>・ ICT機器の効果的な活用を行い、個々の子供たちの実態に応じた手立てが取れるようにする。</li> <li>・ 「振り返り」とともに「三角ロジック」の推進により、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学校「振り返り」を学習に位置付けている。</li> <li>・ 全学校中学校区ごとに「錦江スタンダード」「田代スタンダード」で家庭での学習時間や学習の仕方など小中連携した取組をまとめ、保護者にも周知している。</li> <li>・ 全学校アンダーアチーバーの子供に対して、個別の支援を行っている。</li> <li>・ 週末課題で要約課題等を取り入れた(新聞の比べ読みなど)</li> <li>・ スキルアップタイムを火曜日から金曜日までの15:00~15:10に位置付け、管理職を含め全員で演習問題の実施、解説を行った。</li> <li>・ 教師全員が「校内研修個人記録」を作成している。管理職が中間面談、最終面談でも実践内容を確認し、共通実践が確実に成されるようにしている。</li> <li>・ 学習支援員(町費職員)が、各学年の授業の中でのつまづきが多い箇所をプリントにまとめ、教科担任と連携を取り作成している。全生徒に配布している。</li> </ul>
---

児童数	36	小学校数	2
生徒数	43	中学校数	2
計	79	計	4

南大隅町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	3	14	36	42	6	0	16	26	40	19
	算数・数学	0	31	28	36	6	21	21	42	14	2
	理科	0	19	36	28	17	5	30	42	23	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの教科も県平均には届かなかったが, 令和3年度鹿児島学習定着度調査と比較すると, 県比は小学校では国語(+1.1)と算数(+1.1)でやや改善傾向, 中学校では, 理科(+1.1)で若干の改善が見られた。また無答率は, 小中学校ともに低かった。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度鹿児島学習定着度調査との比較で, 県比で小学校理科(-1.0)は, 若干下降傾向, 中学校国語(-3.3)と中学校数学(-3.8)では, 大幅にポイントを下げた。特に中学校数学では, 基礎・基本の定着が図られていない実態があり, 素因数分解(正答率30.2%), 反例の意味(32.6%), 変化の割合(18.6%)などの通過率が悪かった。また, 学校によって課題とする教科や領域に違いがあり, 個別の対応が必要となる。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職研修会で全国学調の分析を行う際, 町全体の傾向分析と合わせて学校ごとの分析も作成・配布し, それぞれの学校の課題に目を向けられるようにした。また, 基礎・基本の徹底が図れるよう, 演習問題の活用方法について各校に資料提供を行った。さらに, 本年度から立ち上がった教員の自主研修会を通して授業改善に資することができるよう, 資料提供や助言等を積極的に行っている。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修の授業研究に, コアスクールプロジェクトで提唱された「巡りあい学びあう授業研究」を行い, 児童生徒の事実に基づいた授業研究に積極的に取り組んだ。</li> <li>町学力向上委員会にて, 授業における「振り返りの徹底」を共通理解したことを受け, 各学校で大隅学力向上リーフレットに記載されている「ダイヤモンド・サイクル」の視点での振り返りを行うよう, 振り返りシートを作成して取り組んでいる。</li> <li>対話を活性化するために, 大隅学力向上リーフレットに記載されている「三角ロジック」を授業で取り入れるため, 掲示物を作成したり, 指導案に記載したりしている。</li> <li>南日本新聞「よむのび」のワークシートを使い, 児童生徒に読む力をつける取組を行っている。(朝の時間帯に)</li> </ul>
---

児童数	111	小学校数	6
生徒数	82	中学校数	5
計	193	計	11

肝付町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	1	8	22	48	22	2	4	21	37	37
	算数・数学	5	10	35	41	9	4	23	35	27	11
	理科	0	10	29	46	15	1	32	48	14	6

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度の全国学力・学習状況調査と比較すると, 小・中学校の全教科において全国平均正答率と本町平均正答率の差が縮まった。顕著なものとして, 小学校においては, 国語の思考力・判断力・表現力等(特に話すこと・聞くこと), 算数の思考力・判断力・表現力等, 理科の思考力・判断力・表現力等で, 全国平均との差が縮まっている。中学校においては, 思考力・判断力・表現力等(特に書くこと), 数学の思考力・判断力・表現力等, 理科の知識及び技能で, 全国平均との差が縮まっている。ほぼ思考力・判断力・表現力等の差が縮まっていることから, 各学校での授業改善が実行されていることが要因と思われる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考力・判断力・表現力等が十分に育成されていない。(小学校の算数, 中学校の数学, 理科)</li> <li>・ 授業改善につなげるための分析をしていない学校がある。</li> <li>・ 教師によって分析結果に基づいた授業改善の実施に対する意識の差がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析に関する演習を実施する。</li> <li>・ 分析結果が反映された, 単元や本時の指導計画等の作成を推進する。</li> <li>・ 校内研修や研究授業等での, 授業アイデア例を周知する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語において, 自分の考えをもち, 学び合い・深める場の設定及び活動の実施により, 正答率が向上した。</li> <li>・ 発表場面において, ICTの活用やロジカルシンキングを導入したことが, 思考力・判断力・表現力等の育成につながった。</li> <li>・ 正答率が低かった問題を年間指導計画に反映させ, 重点的に指導すべき内容や時期について共通理解を図ったり, 日々の授業を確認したりすることで, 授業改善の意識を高めることができた。</li> <li>・ 学習内容が定着しているかを見届けるためのドリルやテストを実施した。</li> <li>・ 諸学力調査及び分析に基づいた授業改善等の学力向上対策が成果として表れた。</li> </ul>
---

児童数	118	小学校数	10
生徒数	119	中学校数	1
計	237	計	11

西之表市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	8	18	46	27					
	算数・数学	1	18	33	30	19					
	理科	0	6	26	51	18					

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

- 成果
  - ・ 鹿児島学習定着度調査の結果から、漢字や計算など基礎基本の定着に課題があったことから、授業初めにおいて既習事項の小テストを実施したり、終末で一人一台端末を活用したタブレットドリルに取り組むよう指導したりしたことで、特に国語科や理科において「知識及び技能」の内容の正答率が全国を上回った。
  - ・ 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、終末で取り組む発展問題や自宅学習において、全国学調の問題や「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に取り組ませるとともに、できるまで繰り返し取り組むよう指導したことで、特に「国語科」や小学校「理科」においては、上位層の人数割合が上昇した。
- 課題
  - ・ 解答類型を基にした誤答分析を行い、児童生徒の実態に応じた補充指導や調査問題と学習指導要領の関連を明確にした授業改善への取組が不十分である。
  - ・ 各学校の分析の結果を踏まえて、課題となる内容や落ち込みの見られた問題に特化した取組が不十分である。
- 課題の改善策
  - ・ 自力解決の場面において、問題文や資料から読み取ったこと、明確な根拠を基に自分の考えを記述する(書く)時間をしっかり確保する。
  - ・ 全学調の分析については、解説資料の「解答類型」を参考に児童生徒の誤答傾向を詳細に分析し、課題を踏まえた授業改善を行う。
  - ・ 過去問や「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題への取組については、各種調査において落ち込みが見られた領域や内容に関係のある過去問やWeb問題を抽出して、できるまで繰り返し取り組ませるようにする。

3 成果の見られた学校の取組事例

- ・ 記述式の問題を中心に、管理職が終末課題として与え、採点をしたうえで個別指導を行った。また、学級全体で落ち込みが見られたものに関しては、学級担任による補充指導を行った。これらの取組を計画的に継続して取り組んできたことで、記述式の問題も全国正答率を上回る成果を残せた。
- ・ 忘却曲線を考慮した小テストを全学級、全教科で確実に取り組んだり、朝活動や放課後等に既習事項のドリルやタブレットドリルに取り組む時間を確保したりすることで、「基礎・基本」の定着につながった。
- ・ 年度当初に、5年生を対象に昨年度の鹿児島学習定着度調査(国語)を実施し、「条件に沿って書くことができるか」「読むスピードはどうか」を分析した。その結果を、全職員で共有し、個に応じた指導法を話し合う場を設けたことで、同時間接指導中における、個別指導に生かすことができている。
- ・ 「条件を踏まえて書かせる」、「時間や時数を制限して書かせる」などの活動を意図的に授業に取り入れることで、記述の問題における無答率の減少につながった。

児童数	51	小学校数	7
生徒数	59	中学校数	1
計	110	計	8

中種子町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	0	8	22	39	31					
	算数・数学	0	10	24	49	18					
	理科	0	6	27	35	31					

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校においては, 正答率30%以下の児童が10%以下であることと無答率の低さから「非認知能力」の育成が図られていることが成果として挙げられる。</li> <li>小学校においては, 目的に応じた資料選択能力が身に付いてきていることから, 問題文を正確に読み解く力の育成が図られていることが成果として挙げられる。</li> <li>小学校においては, 漢字力や計算力の向上が見られ, 高い定着力で維持できていることが成果として挙げられる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の数学と理科においては, 正答率30%以下の生徒が約半数であり, 無答率も高いことから「非認知能力」の育成が図られていないことが課題である。</li> <li>中学校においては, 数学の関数領域が顕著であるが, 各教科の特性に合わせて論理的に説明する力を育成することに課題が見られる。</li> <li>小学校においては, 解答内容に条件が課せられており, 記述する際に文字数制限まである問題を正確に記述できる力の育成に対して課題が見られる。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学びに向けて, 個に応じた指導の徹底を図るとともに, 児童による教え合いや協働的な学びを取り入れるなどの授業改善を一層推進していく。</li> <li>算数(数学)を中心に, 日常生活場面に関わる課題設定をし, 学んだことを生活に生かすことができるように授業改善への助言を行っていく。</li> <li>学校の課題を全職員で共通理解し, 落ち込みのある単元については, 教育課程の中に位置づけ, 系統的な指導が年間を通して行えるように指導を行う。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>こだわりの視点「いっぱい話す」「たくさん書く」「しっかり振り返る」を設定した。特に振り返りの活動を重点的に行うことで, 聞く, 読むときのポイントや書くときのポイントについて指導を行っている。</li> <li>「こだわりの視点」を職員研修で協議して設定し, 共通理解して授業改善に臨んでいる。探究型の授業, 学び合いの深化, 「できるまで」の繰り返しと個別指導, ICTの日常的・効果的活用などを進めることによって, 教師が説明する時間が減り, 児童が主体的・意欲的に学びを深める姿がより多く見られるようになってきた。</li> <li>出題傾向やつまづきについて, 全員で対策を協議する機会を多く設けることによって, 文章の読み取り方のコツ, 図表やグラフに表す工夫, ラインや数値の書き込みなど, 効率的に解くアイデアを確認することができた。</li> <li>学力検査や知能検査, 読解力テストなどの各種調査結果や分析を相関的にとらえ, 児童に合った支援や効果的な指導法について, 職員研修で深め, 実践へつないでいる。(全職員で授業改善の視点をもって指導に臨む。)</li> <li>日々の授業で, こだわりの視点(特に学び合い)を大切に授業づくりに全校で取り組んでいる。学び合いを支える人権教育も推進し, 児童の学ぶ意欲が高まったり, 自己肯定感が高まったりする学校生活での実践にも力を入れている。</li> </ul>
---

児童数	60	小学校数	8
生徒数	45	中学校数	1
計	105	計	9

南種子町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	0	5	23	43	28					
	算数・数学	0	5	30	37	28					
	理科	0	2	23	43	32					

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校に学力に関する個人カルテを作成させ、個に応じた指導を充実させる取組を行った結果、昨年度と比較して下位層の児童の学力が改善され、1段階の児童が全ての教科で0人であった。</li> <li>前回調査と比較して、上位層が大きく増える結果となった。</li> <li>内容ごとの平均正答率もほぼ全ての内容で全国平均正答率を上回っている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科において、「読むこと」の内容がわずかに全国平均を下回った。</li> <li>児童の質問紙調査において、教科学習に関する意欲面が全国平均を下回った。各学校で進めている「学ぶ意義や楽しさ」と主体的・対話的で深い学びを関連させた授業改善を更に進める必要がある。</li> <li>小規模校では留学生を多数受け入れていることから、この時期の学力テストは以前在籍していた学校での取組が大きく影響する。早い段階で児童の実態を的確に捉える必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で育成すべき資質能力について、研修等を通して更に深めていく必要がある。特に「学びに向かう力・人間性等」については、教材内容の特質、すばらしさや系統、その教科固有の見方・考え方を教師自身が深く理解し、主体的・対話的で深い学びからの授業改善を行う必要がある。日々の授業については、管理職が定期的に授業参観を行い、職員へフィードバックを行う。</li> <li>指導主事が校内研修等で指導助言を行う際、教科や教材の特質、すばらしさや見方・考え方のよさなどを捉えた授業を行えるように学校の実態に応じて効果的に指導する。</li> <li>留学生に関しては、以前在籍していた学校と連携を図り、実態を把握した上で教科指導を行う。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修において、解説資料を基に、子供たちに身に付けさせるべき資質・能力について共通理解を図った。さらに、記述式の問題作成をさせるなどして教師の力量形成に力を入れた。その結果、記述式の問題の正答率が大幅に向上し、無答の児童がいなかった。</li> <li>演習問題を十分に行える時間を確保するよう教育課程の編成上の工夫を行い、問題を解かせるだけでなく、間違った問題について教師が解説を行った。</li> <li>学力に関する個人カルテを作成し、個々の課題を明確にした個別指導を行った。</li> <li>管理職が課題を作成したり、課題の採点をして個別指導を行ったりと、担任任せではなく組織で個別指導にあたった。</li> <li>PTA総会や学級PTAの場で学力について講話を行った。また、町で統一して中学校の中間試験や期末試験に併せて「学力向上強調週間」を位置付け、学力に関する家庭の意識を高めることで、家庭と連携を図った取組を進めることができた。</li> </ul>
---

児童数	102	小学校数	9
生徒数	85	中学校数	4
計	187	計	13

屋久島町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	2	13	34	33	18	0	8	19	37	36
	算数・数学	2	31	37	30	10	8	30	27	25	10
	理科	4	16	23	37	20	2	27	41	24	6

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校で実施された教科全てにおいて県平均を上回ることができた。課題であった思考力・判断力・表現力でも県・全国を上回る結果となった。今後も、これまでの取組 (PDCAサイクルの確立やOODAループの手法を取り入れた指導計画の作成等) を継続しつつ、学校内での職員の意識づくりを通して、取組への真摯な取組が子供の姿で具現化されるように努めていく。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほとんどが小規模校のため、その学年の特色が大きく結果に反映されるが、今後も個に応じた指導を充実させ、学力の二極化の改善に努めることが課題である。</li> </ul> <p>[小学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教科ともに思考力・判断力・表現力の落ち込みが大きく、特に「考察」「分析」「検討」「自分の考えをもつ」という部分が課題である。</li> </ul> <p>[中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に大きく落ち込む部分は見られないが、数学の知識・技能の部分で全国より落ち込む部分があり、基本的な計算等の定着の時間の確保が課題である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職研修会における町全体の分析・考察資料の配布。</li> <li>・ 校内研修や学力向上プログラムを活用した授業改善, 指導力向上研修会の実施。</li> <li>・ 個に応じた学習活動を充実させるため、一人一台端末も積極的に活用しつつ、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に、週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。</li> <li>・ オフラインでも活用できるアプリを導入し、タブレットの持ち帰りを進め、自主的な学習を促す。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレットを活用し、アプリによる反復練習</li> <li>・ 前年度の職員研修による分析を基にした「書くこと」への教科等横断的な共通実践</li> <li>・ 教師の自主的なICT機器活用の研修会の実施による、授業におけるタブレット活用時間の増加</li> </ul>
--

児童数	364	小学校数	21
生徒数	344	中学校数	11
計	708	計	32

奄美市教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	4	12	25	37	23	5	8	20	37	31
	算数・数学	2	13	40	33	11	20	26	28	23	4
	理科	1	11	26	42	21	3	37	41	18	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校理科の正答率が、全国を大きく上回ることができた。実験器具の名称や使い方等の知識・技能に関する内容、事実から考察する問題で高い正答率が見られる。</li> <li>小中共に国語科は、「書くこと」の内容の問題が、全国の平均正答率を上回った。特に、小学校では、文章全体の構成を考え選択する問題や、立場を明確にした上で自分の考えをまとめて記述する問題の正答率が高い。</li> <li>小学校算数科は、基礎的・基本的内容の正答率が高い。特に、計算の技能が確実に身に付いている。</li> <li>中学校理科は、「エネルギー領域」の「力の働き」に関する内容の正答率が高い。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校理科以外の教科は、平均正答率が全国より低く、その差も大きい。特に、中学校は課題が大きく、その中でも数学の学力を高めることが喫緊の課題である。</li> <li>小中共に、国語科は、知識・技能の観点である文脈に沿った漢字を書くこと、読むことの内容である文章の叙述を基に内容を捉えたり、解釈したりすることが課題であるため、継続した習熟への取組や読む能力を高める取組の充実を図る必要がある。</li> <li>小中の国語科では、話し合いやスピーチなど、場や相手に応じた表現の理解や実際の表現方法、言葉の使い方について落ち込みが見られたことから、場や伝える相手との関連を意識した指導を行う必要がある。</li> <li>我が国の言語文化に関する事項(書写)の内容の、作品を見直す問題で落ち込みが大きいことから、活動や成果物について自己評価や他者評価を行いながら、自らの活動を吟味する場を設ける必要がある。</li> <li>小学校算数は、割合やプログラミングの内容の問題で落ち込みが見られたことから、知識を基にして解決への道筋を論理的に考える活動を重視する必要がある。</li> <li>中学校数学は、素因数分解、連立方程式等、知識・技能の観点である基礎的・基本的な計算ができない生徒の割合が非常に高い。また、解決の過程、事柄が成り立つこと・判断したことの理由など、考えを筋道立てて説明することで落ち込みが大きい。</li> <li>中学校理科は、追究したきまりを基に新たな問題を見付けること、事実を基に考察することに課題があることから、探究的な活動の展開を基本としながら、他者とのやりとりを通して、自分の考察を見直す場を設ける必要がある。</li> <li>小中共に、記述に関する問題で課題が見られる。特に、根拠や分析したこと・考察したことを記述することに課題がある。</li> <li>小中共に、表やグラフや式などを関連付けて考えたり、友達のを考えを基に自分の考えを見直したりする内容の問題で課題がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市教委主催の管理職研修会において、児童生徒個々の実態(誤答傾向)を分析し、つまづいている理由(どうしてできなかったのか)を明らかにすることを指導する。</li> <li>管理職研修会や学力向上推進委員会において、主体的に問題を追究する問題解決能力を高めるために、児童生徒の思考や意識の流れを大切に授業を行うことを指導する。</li> <li>授業の中では、確かめ・見届けの充実を図ることを指導し、形成的評価による発展・補充指導の取組、感想の発表で終わらない振り返りに取り組ませる。</li> </ul> <p>&lt;各教科等における具体的事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や計算、図形の定義など基礎的・基本的内容の定着については、個の実態(課題)に応じて、家庭学習などを活用した継続的な取組を行うこと。</li> <li>読む能力の向上に向けて、音読→内容の読み取り→自分の考えの構築という、段階を意識した取組を行うこと。特に内容の読み取りにおいては、文章構成を意識させて読ませること。</li> <li>探究的な授業を展開すると共に、活動や事実、見つけたきまりなどを多角的に見直す活動を意図的に組み入れていくこと。その際、自己のみでなく、他者からの意見を参考に見直すこと。</li> <li>授業において、自分の考えを説明する場を設けること。また説明するだけでなく、他の人の考えを用いて新たに追究させたり考えさせたりすること。</li> <li>グラフや表など複数の情報を関連付けたり、グラフや表、式に表す、反対に表したグラフや表、式から考えるなど、双方向で考えさせたりする場を設けること。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<p>&lt;小学校で成果が見られた学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が主体的に追究する授業が展開されている。ICTを活用し、自力解決での自己の考え→学び合い→自己の考えの深まりの流れが確立されている。</li> <li>年間を通して良問に取り組む具体的な計画を立てている。学力向上タイムの取り組む内容や、その際の職員の配置など、管理職も入り組織的に取り組んでいる。</li> <li>授業内容が精選され、45分で振り返りまで行える授業が展開されている。</li> <li>良問に計画的に取り組ませている。学級PTAなどでの保護者への意識付けや、業間での補充指導や説明等の見届けまで確実にいき、繰り返し指導を行っている。また、分かる児童が分からない児童に教える、児童同士の教え合い、学び合いを行っている。</li> <li>読む力を培うために、国語科の説明文において、文章の構成を意識させる実践に取り組んでいる。</li> <li>R3鹿児島学習定着度調査を終えてからも継続した良問への取組を行っている。特に、春期休業中にも課題を課すこと、6年生になってからも調査までは、良問(過去問、web問題)を中心に取り組ませている。</li> </ul> <p>&lt;中学校で成果が見られた学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究的に、課題を追究する授業が展開されると共に、まとめまでをコンパクトに行い、習熟の時間を十分に確保している。その結果、確かめ・見届けを行い、確実に定着できる取組を行っている。</li> <li>定着が不十分な生徒に関しては、休み時間や課外の時間を利用して、個別指導を行い、確実にできるまで取り組ませている。</li> <li>自由に質問できる環境を設け、休み時間を使って個別指導を行っている。</li> <li>毎週末に課題プリントを与えている。内容を、ホップ(基礎的な計算)、ステップ(その週で学習したこと)、ジャンプ(過去問やweb問題)と生徒の学力に応じた内容になっている。学習が苦手な生徒には、ステップまで取り組ませるようにし、生徒のレベルに合った課題に取り組ませている。</li> </ul>
---



児童数	68	小学校数	10
生徒数	63	中学校数	5
計	131	計	15

瀬戸内町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	6	12	32	32	18	5	16	9	35	35
	算数・数学	3	18	37	32	10	19	30	25	18	8
	理科	0	19	29	37	15	16	25	37	19	3

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語については、県平均との差が小さくなっている。</li> <li>・ 小学校国語・算数において、鹿児島学習定着度調査時に10ポイント程度あった県との差が、約5ポイント縮まった。</li> <li>・ 町の指示した「今週の良問」を計画的に取り組み、見届けを徹底した学校は、県平均を上回っている。</li> <li>・ 指導主事2人を講師として計画的に派遣要請し、授業改善に努めた学校は、県平均を上回っている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校数学・中学校理科において、0～5問のみの正答者の割合が町内5割弱を占めている。基礎・基本の定着が課題である。</li> <li>・ 問題を読み解く力、自分の考えを表現する力の育成が必要である。</li> <li>・ 児童・生徒に各種調査に粘り強く取り組む意欲をもたせる。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間に全国学力・学習状況調査の正答率の低い問題を活用し、生徒が理解できるようになるまで、見届けをする。</li> <li>・ 0～5問のみの正答者については、さらに2問できるように、個別に指導を行う。</li> <li>・ 児童・生徒が調査に向けて関心・意欲をもてるように、授業中のレディネステストや評価テストで高得点を取らせる。</li> <li>・ 「書く活動」の力を身に付けさせるために、演習問題への取組や授業における自己表現の場をつくることを徹底する。</li> <li>・ 年3回の学力向上対策会議において、基本的な学習習慣の育成、授業のバックワードデザイン化、Web問題の活用等、学力向上に関する具体的な共通実践事項を確認し、町全体で同じ目標に向かって取り組むという一体感を醸成する。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度の夏季休業中に、過去問の出題傾向の分析を細かく行い、自校の現状と比較した後、演習問題等により、課題解決を図った。</li> <li>・ 昨年度の3学期から、過去問を授業に取り入れ、できる問題を増やした。</li> <li>・ 授業中に、グループ活動やペア学習で自分の考えを相手に伝えさせたり、書かせたりする活動を徹底した。</li> <li>・ 校内研修により、全職員で研究授業に参加する機会をつくり、授業改善について全職員で検討した。</li> <li>・ 読解力や書く活動を身に付けさせるために、新聞記事を利用した問題に取り組んだ。</li> </ul>
---

児童数	52	小学校数	7
生徒数	33	中学校数	3
計	85	計	10

龍郷町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	4	12	21	31	33	3	9	21	46	21
	算数・数学	6	12	33	37	13	18	30	27	18	6
	理科	0	8	17	46	29	3	36	49	12	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校においては、授業改善と演習問題を両輪として取り組んでおり、特に小学校では全体的に「目に見える学力」として定着が図られている。</li> <li>IR研修を中心とした児童生徒の事実に着目した視点をもった授業研究が増え、児童生徒の学びの事実から小中の教員同士が同じ共通課題を共有して学び合う校内研修の充実が図られている。</li> <li>管理職研修会や校内研修などで、県の教科指導をリードする学校や実践者から資質・能力を育成していくための授業づくりに関する本質的な内容について指導をもらうなど、研鑽を深める機会を設定できた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修などにおいて、活動や場づくりなどの学習形態の工夫が多く、資質・能力を育成していくための目標や教科内容につながる議論が少ない。</li> <li>本単元で学んだことを、次の単元でも活用させることができるまでの力として高めていくために、各教科等の見方・考え方の発揮や育成につながる授業づくりや授業実践が少ない。</li> <li>タブレット端末を活用した授業と家庭学習との連携など、学習習慣の形成のための取組を充実させる必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修や管理職研修会等で、授業づくりや教材研究の上で学習指導要領の内容(教科内容、各教科等の見方・考え方を発揮させる授業づくりなど)や理念を理解することができるような研修の工夫を行っている。</li> <li>GIGAスクール構想に沿って、町内の教員同士が授業づくりに関する情報交換や議論等を好きなタイミングで自由に行えるようなオンラインプラットフォームなどの作成を検討している。</li> <li>タブレット端末の持ち帰りの推進を行い、学校(授業等)と家庭を効果的につなぐ視点から、各学校での取組や工夫を検討させる。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職が学校経営における重点取組事項の中に「子ども主体の授業づくり」をテーマに掲げ、①本時のゴール設定と見通す活動②理由や根拠を明確にした対話活動③考えを再構築する言語活動(書く活動)④学びを可視化する振り返り活動といった4つの観点を明確にしている。</li> <li>校内研修において、研修係を中心としながら、目標や教科内容についての視点をもった授業研究会や授業づくりに関する研修を行っている。</li> <li>GIGAスクール構想の進捗に合わせ、タブレット端末の持ち帰りを進めるとともに、持ち帰った際の家庭学習と授業をつなぎ、自ら学びを組み立てていく力を育成するための取組について全職員で検討している。</li> <li>定期テスト(中間テスト)を廃止し、単元テストと期末テストに切り替えることやテストとして評価する教科の精選等を行い、指導と評価の一体化を図り授業改善に生かすとともに、生徒の学び直しの機会を設け、自分の課題に対して計画的・継続的に取り組めるように学校の取組を見直し・改善を図っている。</li> </ul>
--

児童数	61	小学校数	2
生徒数	57	中学校数	1
計	118	計	3

喜界町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	5	13	23	43	16	9	16	23	30	22
	算数・数学	7	20	33	29	11	29	25	29	6	11
	理科	3	13	26	45	13	2	42	35	19	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校における理科の平均正答率を全国(県)平均と比較すると小学校で1(5)ポイント, 中学校で3(3)ポイント下回っていたが, おおむね全国平均の水準であるといえる。</li> <li>・ 小学校における国語の4, 5段階の割合は59%となっており, 前年度より5ポイント増加した。また, 中学校における国語の5段階の割合は22%となっており, 前年度より10ポイント増加した。これらのことから, 国語は上位の割合が相対的に増加したといえる。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均正答率について県平均正答率と比較すると, 小学校では算数が7ポイント, 中学校では国語が10ポイント・数学が9ポイント下回っていた。</li> <li>・ 観点別について県平均と比較すると, 小学校算数の知識・技能が7ポイント, 中学校国語の思考・判断・表現が13ポイント, 数学の知識・技能が9ポイント, 思考・判断・表現が8ポイント下回っていた。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良問を定期的に解かせたり, 一人一研究授業の実施によって, 授業改善の取組を進める。</li> <li>・ 下位層や中位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため, 一人一台端末を積極的に活用しつつ, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に, 週1回以上取り組ませるとともに, 基礎・基本の習得に向けた指導を徹底する。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校時表に計算練習の時間(毎週水曜日, 30分間)を位置付け, 全学年の年間計画を設定して取り組んでいる。教師が準備した計算問題で習熟を図ったり, Web問題で発展的に取り組んだりしている。</li> <li>・ 「パワーアップタイム」として, 小学校5・6年生を中心に国語の「読む」「書く」を中心とした個別指導を行っている。</li> <li>・ 授業において「分からない」を大切にしたい聞き合い・学び合いのある授業づくりを共通実践することで, 生徒が相互の対話を通して理解を深めることができている。</li> </ul>
--

児童数	662	小学校数	8
生徒数	287	中学校数	6
計	949	計	14

徳之島町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	5	11	27	34	23	6	13	17	38	27
	算数・数学	3	18	31	28	19	23	36	23	13	6
	理科	2	9	24	43	23	5	44	30	20	1

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校理科の平均正答率が, 全国及び県を大きく上回ることができた。</li> <li>・ 児童質問紙において, 自己肯定感や粘り強さ, 学校生活全般の安心・安全, 意欲に関する項目が全国や県を大きく上回ることができた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校においては, 国語と算数が全国及び県を下回る結果であった。</li> <li>・ 中学校においては, 全教科全国及び県の平均正答率を下回る結果であった。特に数学には, 大きな課題が見られた。</li> <li>・ 生徒質問紙において, 自己肯定感や粘り強さ, 学校生活全般の安心・安全, 意欲に関する項目が全国や県を下回る結果であった。</li> <li>・ 小学校, 中学校ともに, 家庭学習及び読書の時間が全国及び県を下回る結果であった。また, 本の所有数も少ないことから, 家庭での学習環境の整備に向けた啓発にも取り組む必要がある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国や県の平均正答率に達していない教科が多い現状から, 授業において確実に「分かった」, 「できた」を実感させる必要がある。そのために本町では, 一単位時間における終末段階の指導の充実に努めさせる。</li> <li>・ 学習したことを家庭学習に生かすために, 構造的な板書及びノート指導の充実に努めさせる。</li> <li>・ 演習問題の取組は日常化されつつある。今後は, 演習問題の取組を確実に見届け, 個別指導の充実に努めさせる。</li> <li>・ 本町は, 亀津中学校がコアスクールプロジェクト校として校内研修の充実に取り組んでいる。児童生徒の学びに向かう力等を更に高めていくためにも, コアスクールプロジェクトで取り組んでいる校内研修の基本的な考え方を町内の小・中学校に広げ, 確実に実践できるように努めさせる。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web問題, 全国学力・学習状況調査の過去問題を, 自作の類似問題として作成し直し, 更に授業のどの場面で取り扱うか計画を立て, 計画的・継続的に取り組むことで成果を上げることができた。</li> <li>・ 授業の導入で, 意図的・計画的に学び直しの場面を設定することで, 基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>・ 理科の学習においては, 体験的な学習を丁寧に取り扱うことで学習の定着を図っている。また, 定着の低い単元については, 理科レポートを作成させることで, 学習の振り返りに取り組ませるようにしている。</li> <li>・ 各学校の課題克服に向けて, 学校独自の「〇〇タイム」などを設定し, 意図的・計画的に補充指導等に取り組んでいる。</li> <li>・ 少人数の学校間で日常的に遠隔合同授業を行い, 児童生徒同士の多様な考えにふれさせる場を意図的に設けるようにしている。</li> <li>・ 学校の課題を研修テーマに位置付けることで, 年間を通して継続的に指導に取り組んでいる。</li> </ul>
--

児童数	48	小学校数	6
生徒数	48	中学校数	3
計	96	計	9

天城町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	4	15	27	29	25	6	23	19	19	27
	算数・数学	2	17	29	36	17	27	38	15	15	6
	理科	4	11	25	33	27	11	42	38	11	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本町の正答率には依然として課題が残るが、ほとんどの学校で無解答率が下がっている。児童・生徒が最後まで粘り強く問題に取り組もうとしていたことがうかがえる。あきらめずに問題に向き合うという各学校での取組の成果が出てきている。</li> <li>小学校においては、全国とほぼ同等の結果を出すことができおり、教育委員会として各学校に指導している良問への取組やWeb問題への計画的な取組等が実践されている成果である。</li> <li>中学校においては、まだまだ県や全国と比べると厳しい結果であるが、小中連携を推進したり、個別の支援を充実させたりする取組については浸透してきている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校においては、算数の「ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場面に割合を用いることがあること」を理解することについて、通過率が22.9%と課題が見られた。日々の授業において、日常の場面に対応させながら課題に取り組ませるなどの取組が必要である。</li> <li>「42を素因数分解する」問題の通過率が25%と、県や全国と比較しても低いという結果である。このことから数学の基礎・基本ともいえる素因数分解することの意味を理解させることと、生徒一人一人の定着状況に合わせた個別指導の充実が必要である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の教員の授業力を向上させ、授業改善を図るために、管理職による日常的な授業参観や参観後の指導を計画的に取り組ませる。(校長面談や校長研修会等で指導し、状況確認をする。)また、計画されている学校訪問だけに限らず、指導主事が随時学校を訪問し、授業参観を実施するとともに、一人一人の教職員に対して指導・助言をする。</li> <li>町の広報紙等で、児童・生徒の学力の状況について町民に示すとともに、児童・生徒の学力向上を学校任せにするのではなく、各家庭や地域等が一体となって学力向上に取り組むよう啓発活動を行う。</li> <li>各学校の取組状況について情報交換を行ったり、町の共有校務システムを活用するなどして、優れた実践等を共有できるようにしたりする。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の活動(〇〇小スタディ)を利用し、Web問題や全国学力・学習状況調査の過去問題に取り組ませている。</li> <li>昨年度10月から、帰りの会等を活用し、鹿児島学習定着度調査へ向けた発展問題に取り組む時間を設定している。</li> <li>タブレット端末を活用して、演習問題等(AIドリル等)へ取り組ませている。(児童も意欲的に取り組んでいる様子である。)</li> <li>日課表を見直し、帯の時間(GT:学習タイム)を設定。管理職や事務職員も含めて、全校体制で児童の指導にあたっている。</li> <li>各種学力検査等の分析を踏まえた、計画的かつ継続的なプリント学習等を実施している。</li> <li>小・中併設校のよさを生かし、中学校の教員による小学生への指導、また、小学校教員による中学生への指導を計画的・継続的に実施している。</li> <li>キャリア教育の視点をもった指導を日常的に行っている。生徒に対して「なぜ学習するのか」「今学習していることが、将来どのように繋がっていくのか」を考えさせながら、学習に取り組ませている。</li> </ul>
---

児童数	71	小学校数	8
生徒数	69	中学校数	3
計	140	計	11

伊仙町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 合 (%)	国語	1	18	28	30	23	4	12	31	36	17
	算数・数学	0	18	30	38	14	23	28	25	16	8
	理科	0	11	23	27	39	6	43	31	19	1

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職研修会にて, 本町の実態の分析結果の状況と学力向上への取組は, 一部の教員が行うのではなく, 全職員(管理職を含む)で行うことを共通理解した。また, 演習問題やWeb問題等に計画的・継続的に取り組み, 管理職による確実な見届け, 教職員へのこまめな声かけによる進捗の確認の徹底や継続的な個別・補充指導の成果を具体的な事例を挙げて指導・助言を行った。</li> <li>校内研修(研究授業)において, 児童・生徒の姿(事実)を通じた研修や, コア・スクールプロジェクトの取組を全小中学校へ周知し, 結果に責任をもたせる指導方法の改善につながるよう指導・助言を行った。 このような取組を通して, 小学校は, 全国平均とほぼ同等, 中学校は国語科において, 1ポイント改善を図ることができた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校が, 全教科県・全国平均を下回っている。</li> <li>小学校国語科の正答分布が前年度と比較し, 「4」が約10ポイント減り, 「2」が約10ポイント増えている。</li> <li>小学校別に分析すると, 平均を大きく下回る学校がある。</li> <li>各校の調査結果について, 管理職の危機感のもち方に差がある。</li> <li>演習問題, Web問題等への取り組み方に各校でばらつきがある。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理職研修会等において, 授業の指導方法改善, 演習問題等への通年で取り組ませること等を繰り返し指導・助言する。</li> <li>校内研修(研究授業他)において, 各校の各種調査の現状(結果)を基に, どこに課題があるのか具体的に, 指導・助言する。</li> <li>町学力推進協議会, 東部・中部・西部(各中学校区)における小・中学校連携部会の活性化を図る。(各地区で授業を通じた研修会を実施する。)各地区の学力に関する課題や効果的な適用問題等の活用の仕方を検討し, 具体的な取組を共通理解させる。コアスクールプロジェクトの授業研究の進め方を共通理解・共通実践し, 指導方法改善の充実を図る。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科「説明文」の研究授業をとおして, 説明文にある情報に対する自分の考えを記述させるためには, どのような「授業構成」「発問」「児童の活動時間設定の在り方」が望ましいかを追究し, 授業改善を目指した。</li> <li>1単位時間内に, 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための時間を設定し, 定着に向けた実践を重ねてきた。</li> <li>理科を中心に, 観察・実験をとおして, 「多角的に捉える(考える)活動」「差異や共通点を比較する活動」を取り入れ, 実感を伴った理解が図られるような授業構成を目指した。</li> <li>講師を招聘し, 子どもの学びに着目した授業参観・授業研究の在り方や授業づくりについて学ぶ研修を行った。</li> <li>教科の枠を越え, 授業参観・授業研究を行う機会を増やし, 授業改善に取り組んできた。</li> <li>過去に出題された問題が, どの学年のどの単元(題材)のものかを整理し, 指導書に付箋を貼るようにした。全国学力・学習状況調査で問われた身に付けさせたい力を, 明確にもちながら授業を展開することにつながっている。</li> <li>学力アップタイム(業間に設定)や家庭学習において, 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるために演習問題に取り組ませた。</li> <li>演習問題において, 児童に, 「キーワードや大切な言葉等を囲む作業」や「必要な情報同士を結びつける作業」を行わせ, 「情報の焦点化」「情報の視覚化」を可能とするスキルの向上を図った。</li> <li>月曜6校時「学力向上の時間」や家庭学習などで, 過去に出題された問題に取り組ませるようにした。特に「学力向上の時間」には, 担任だけでなく管理職をはじめとする他職員も入り, 解き方を説明するなど個別指導ができるよう努めた。定着が不十分な内容については, 繰り返し取り組ませた。</li> <li>演習問題において, 児童に「キーワードや大切な言葉等を囲む作業」や「必要な情報同士を線で結びつける作業」を行わせ, 「情報の焦点化」「情報の視覚化」が可能となるスキルの向上を進めた。</li> <li>学力向上タイムを, 家庭学習と関連付けることによって, 学習内容の充実を図った。</li> <li>週末課題を課すなど, 自宅学習の量を増やした。</li> <li>管理職も授業に入り, 指導(複式の解消)を行った。</li> </ul>
---

児童数	54	小学校数	4
生徒数	53	中学校数	2
計	107	計	6

和泊町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

人数割合 (%)		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	0	15	20	48	17	2	4	14	39	41
	算数・数学	0	13	39	39	9	8	31	25	25	10
	理科	0	6	22	50	22	4	23	51	17	6

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校では、国語、算数の平均正答率はほぼ全国平均並み、理科は全国平均を大きく上回った。</li> <li>・ 中学校では、国語、理科の平均正答率は全国平均を大きく上回った。数学は全国平均に届かなかったが、初めて県平均に並ぶことができた。</li> <li>・ 機会あるごとに本町の最大の課題は「学力向上」であることを意識させた。また、常に数値（結果）を意識するように管理職研修会等で繰り返し指導した。</li> <li>・ 「授業改善」「演習問題の取組」「家庭学習の充実」を重点取組として共通理解し、町全体で取り組んだ。</li> <li>・ 「書くこと」を意識した授業改善の取組、日々の教育活動への取組が結果として表れてきている。児童生徒に粘り強く取り組む態度が身に付き、無答率の低さにつながった。</li> <li>・ 「児童生徒質問紙」を大事にするとともに、分析を積極的に行うよう各学校へ指導した。教師と児童生徒の認識のずれに気付くことができ、児童生徒の立場に立った授業改善への意識が高まってきた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語では、「読むこと」の領域に落ち込みが見られる。</li> <li>・ 算数・数学では、「数と計算」「数と式」の領域に落ち込みが見られる。</li> <li>・ 数学では、正答率分布表の「1（0～2問）」段階の生徒の割合が比較的高くなっている。個人差が大きくなっている傾向がある。</li> <li>・ 理科では、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校への指導の際に、本町の課題についてふれ、町内教職員と課題の共通理解を図る。</li> <li>・ 各学校に自校の結果について分析させ、教科ごとに成果と課題、改善策（具体策）について報告させる。</li> <li>・ 算数・数学の「数と計算」の領域は、小・中学校で共通して見られる課題であるので、町の教科部会に協力を依頼し、小学校低学年から系統的なチャレンジ問題等、統一した問題を作成していきたい。</li> <li>・ 「授業改善」「演習問題の取組」「家庭学習の充実」の3つの重点取組を継続しながら、PDCAサイクルにしたがって見直し、改善を進めていく。</li> <li>・ 教育委員会として、各学校の取組の見届けと指導を徹底していく。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業改善」「演習問題への取組」「家庭学習の充実」を徹底して取り組ませる。</li> <li>・ 校時表に学力向上の時間を位置付ける。（朝の時間、ぶら下がりの時間の個別指導の時間の確保）</li> <li>・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視した授業改善に全職員で取り組む。</li> <li>・ 計画的に演習問題へ取り組むとともに、管理職も採点や見届け等に積極的に関わる。</li> <li>・ 教科の特性を生かし、課題解決学習を繰り返し行う。</li> <li>・ 特に気付きから学習課題を設定していく導入での取組を大事にする。</li> <li>・ 授業と家庭学習との連携を図るため、帰りの会で家庭学習への見通しをもたせる。</li> <li>・ 担任ばかりでなく、少人数指導担当や学習支援員の指導など、全職員で丁寧な個に応じた指導を繰り返す。</li> <li>・ 時間を区切って問題に取り組ませることで素早く正確に問題を解く力を伸ばす時間を設定した。</li> <li>・ 話す・書くなどの表現活動時に、児童の実態に応じたモデルの提示を行い、効果的な学習を行う。</li> <li>・ 問題に取り組ませた後に解説を行うこと、また、再度取り組ませ、理解を確かめる時間を設定する。</li> <li>・ 授業導入時に前時の学習内容を振り返るなど、学習内容の確実な定着を図る時間の確保を行った。</li> </ul>
---

【様式1】

児童数	44	小学校数	5
生徒数	45	中学校数	2
計	89	計	7

知名町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	0	18	27	25	30	4	11	22	27	36
	算数・数学	0	14	41	30	16	22	24	31	22	0
	理科	0	14	21	34	32	2	42	44	11	0

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科については、平均正答率が県平均+3という結果であった。領域別ではエネルギー、粒子、地球においても県・全国を大きく上回っている。知識・技能においては県平均並みであるが、思考・判断・表現については、県平均を4.3%上回る結果となっている。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科については、平均正答率が県平均-3と下回ったものの、経年で比較すると、伸びがみられた。(昨年度比+2) 正答数12~15問の生徒が16人と最も多く、正答分布4~5段階の生徒が全体の62%を占めている。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科が県平均-3、算数科が県平均-1と下回った結果であった。国語科においては、知識・技能において県平均を7.5%下回っており、言葉の特徴や使い方に関する事項や言語文化に関する事項に課題がみられる。算数科においては、図形、データの活用の領域に課題がみられ、国語科同様、知識・技能が県平均を2%下回っている状況である。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教科において県平均を下回っている。特に数学科においては、県全体でも全国比-4と課題があったが、本町は県平均から更に-8という状況であり、課題が大きい。領域別では、図形(県比-8.9%)、関数(県比-14.3%)の領域において大きく下回っており、知識・技能、思考・判断・表現ともに課題が大きい状況である。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果については徹底的に分析し、2学期以降の授業改善の具体的目標を設定することを管理職研修会等で指導する。(県指導主事会議における義務教育課長プレゼンの活用)</li> <li>町全体通過率30%以下の問題を抽出し、授業における説明、学び直しの機会を設ける。</li> <li>知識・技能の定着を図るためAIドリル「Qubena」の授業終末10分や業間等における活用を更に推進する。</li> <li>特に継続して課題のみられる中学校について、校内研修等の機会を活用して、自校の結果分析、授業改善に関する指導を行う。また、改善が図られたか確認するため継続的に学校訪問を行う。</li> <li>秋田県東成瀬村の家庭学習ノートの取組を参考に、「知名町家庭学習のすすめ」リーフレットを作成し、小・中学校全世帯に配付する。リーフレットの活用をとおして、家庭学習の習慣化だけでなく「どのように学ぶか」という学び方の周知、望ましい生活習慣の定着等を図る。</li> </ul>
--

3 成果の見られた学校の取組事例

<p>今回すべての教科において、県平均を大幅に上回っている小学校が2校あったが、どちらの学校も以下のような取組を行っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の鹿児島学習定着度調査終了後の2月以降、H28年度~令和3年度の全国学力・学習状況調査の過去5年間の過去問題に計画的に取り組んでいた。問題を複数プリントアウトし、児童に取り組みさせたプリントは担任が回収し、職員室のポストに入れ、管理職も含めた職員が分担して採点作業を行っていた。</li> <li>授業の終末10分の確かめ・見届けの時間が充実している。本時の学習が身に付いているかどうか、ポストテスト、練習問題等を行い、課題が早く終わった児童から自主的に一人一台端末でAIドリルに取り組むという学習習慣が定着している。</li> </ul>
---



児童数	50	小学校数	3
生徒数	55	中学校数	1
計	105	計	4

与論町教育委員会

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について  
(正答率分布表, 成果と課題, 取組事例)

1 正答率分布表

		小学校					中学校				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人数割合 (%)	国語	0	10	20	38	32	7	7	26	27	33
	算数・数学	0	10	36	40	14	20	18	27	22	13
	理科	0	0	22	46	32	0	36	46	16	2

2 教育委員会としての成果と課題, 課題の改善策

<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に, 各学校の教頭と学力向上担当者及び町教委の指導主事からなる「与論町学力向上対策委員会」を編制し, 年間を通した学力向上策の必要性と各学校の取組の見通しについて確認をした。小学校については, その学力向上策の成果が本調査での正答率の高さに表れている。一方, 中学校の結果には課題が少なからず見られたが, 3教科とも無回答率が全国平均より低く, 生徒が調査問題にしっかりと向き合っている様子が窺えた。</li> </ul> <p>○ 課題</p> <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3教科とも平均正答率が全国平均を上回っている。ただし, 領域別に見ると, 国語では「D読むこと」が, 算数では「C変化と関係」及び「Dデータの活用」が全国平均に届いていない状況である。</li> </ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3教科とも平均正答率が全国平均を下回った。特に, 調査問題を0~2問しか解くことができなかった生徒が国語で全体の7% (昨年度2%), 数学で20% (昨年度10%) おり, これまでも課題となっていた学力層の2極化が一層顕著になっている。</li> </ul> <p>○ 課題の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校において誤答傾向の分析を充実させ, 正答にたどり着けなかった児童生徒の思考を明らかにすることにより, 指導方法の工夫と改善に生かすように指導している。</li> <li>また, 児童生徒質問紙の結果では, 本町の児童生徒の自己有用感や粘り強さ等の非認知能力の低さが, 引き続き課題として明らかになっている。児童生徒の豊かな「島だち」の実現のためにも, 毎日の授業の中で「分かった」「できた」等の成功体験を積み重ねさせることにより, 学力が身に付くと同時に自尊感情が高まるような授業を推進する必要がある。そこで, 与論町学力向上対策委員会は, 町として目指すべき1単位時間の授業のモデルとなる「与論町『授業スタンダード』」を作成し, 各学校に周知するとともに, 校内研修での活用等について働き掛けているところである。</li> </ul>
---

3 成果の見られた学校の取組事例

<p>【校長による, 児童一人一人の伸び率の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ある学校では, 例年実施している標準学力検査の採点後に, 校長自ら, 児童生徒一人一人の検査結果の経年変化を教科ごとに算出している。そして, 校長は, 担任との面談の際にそのグラフを資料としながら, 「Aさんはよい結果を出しているが, 前年度と比べると全ての教科で落ち込みが見られる」とか, 「Bさんは学力低位層にあるが, 前年度と比べてこのように伸びている」などのように, 児童生徒一人一人を主語にしながら今後の学力向上策について語り合っている。このこともあって, この学校では, 担任一人一人が, 個に応じた指導を重要視するようになっている。</li> </ul> <p>【援助を求め合い, 支え合う組織文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ある学校で, 担任から管理職に, 「授業改善に努めてはいるのだが, ある教科がなかなか結果につながらない」という相談があった。管理職は, その教諭の授業の参観を通して, その教科における個別指導の必要性を感じ, 教頭や学級担任以外の教諭による授業内外のサポート体制を素早く構築した。このように, この学校では, 担任が学力向上について周囲に援助を求めたり, その求めに対してチームとして支え合おうとしたりする風土が組織全体で大切にされている。</li> </ul>
--